

国際メディカル専門学校
鍼灸学科（夜間部）
カリキュラム概要
（2019年度）

※2019年度は新・旧カリキュラム移行期のため、第1学年および第2学年は新カリキュラム（総単位数 139 単位、総時間数 2,655 時間）、第3学年は旧カリキュラム（総単位数 107 単位、総時間数 1,980 時間）の適用となる。

鍼灸学科(夜間部)

新カリキュラム(2018年4月より適用。2019年度現在、第1学年(2019年度生)および第2学年(2018年度生)に適用)

実務経験のある教員等による授業科目
2019年度 単位数

科目	単位数	総時間数				学年別				実務経験のある教員等による授業科目			
		講義	演習	実技・実習	計	1年	2年	3年	計	2019年度	単位数		
基礎分野	心理学	2	30			30		30		30			
	マーケティング	2	30			30		30		30			
	英語	2	30			30		30		30			
	中国語	2	30			30	30			30			
	スタディスキルズ	1	15			15	15			15			
	コミュニケーション技法	2	30			30	30			30			
	情報処理 I	2	30			30	30			30			
	情報処理 II	1	15			15	15			15			
計	14	210	0	0	210	120	90	0	210		0		
専門基礎分野	解剖学 I	3	45			45	45			45			
	解剖学 II	3	45			45	45			45			
	解剖学 III	4	60			60	60			60			
	生理学 I	4	60			60	60			60			
	生理学 II	4	60			60	60			60			
	解剖生理 I	3	45			45		45		45			
	解剖生理 II	3	45			45		45		45			
	運動学	2	30			30		30		30			
	病理学概論	2	30			30		30		30			
	臨床医学総論	4	60			60		60		60			
	臨床医学各論 I	3	45			45		45		45			
	臨床医学各論 II	4	60			60			60	60			
	臨床医学各論 III	4	60			60			60	60			
	リハビリテーション医学	4	60			60		60		60			
	公衆衛生学	2	30			30	30			30			
	保健医療福祉と はり及びきゅうの理念(3)	2	30			30			30	30			
医療概論	1	15			15	15			15				
計	52	780	0	0	780	315	315	150	780		0		
基礎はりきゅう学 (9)	経絡経穴概論	6	90			90	90			90	○	6	
	伝統医学概論 I	4	60			60	60			60	○	4	
	伝統医学概論 II	2	30			30		30		30	○	2	
	臨床はりきゅう学 (13)	病態生理	1		30		30			30	30		
		適応と鑑別	2	30			30			30	30		
		鍼灸理論 I	1	15			15	15			15	○	1
		鍼灸理論 II	3	45			45		45		45	○	3
		体表観察	1		30		30		30		30	○	1
		症例検討	1		30		30			30	30		
	社会はりきゅう学 (2)	伝統医学臨床論	4	60			60			60	60		
文献閱讀		1	15			15		15		15	○	1	
鍼灸業界教養	1	15			15	15			15	○	1		
計	27	360	60	30	450	180	120	150	450		19		
総合領域(10)	伝統医学史	1	15			15			15	15			
	就職実務	1	15			15		15		15			
	医学補完 I	2	30			30	30			30			
	医学補完 II	1	15			15		15		15			
	医学補完 III	1	15			15			15	15			
	対策授業 I	4	60			60			60	60			
	対策授業 II	5	75			75			75	75			
	総合実技	1		30		30			30	30			
	総合医学演習	1		30		30			30	30			
	計	17	225	0	0	225	30	30	225	285		0	
実技(15)及び臨床 実習(4)	鍼灸実技 I	5			150	150	150			150	○	5	
	鍼灸実技 II	5			150	150	150			150	○	5	
	経絡経穴実技 I	1			30	30	30			30	○	1	
	経絡経穴実技 II	1			30	30	30			30	○	1	
	手技実技 I	1			30	30	30			30	○	1	
	手技実技 II	1			30	30	30			30	○	1	
	美容スポーツ各種鍼灸	2			60	60	60		60	60			
	現代鍼灸検査実技	1			30	30	30			30	○	1	
	伝統鍼灸診察実技	1			30	30	30			30	○	1	
	現代鍼灸実技	3			90	90	90		90	90			
	伝統鍼灸実技	3			90	90	90		90	90			
	臨床実習前実技	1			30	30	30			30	○	1	
	臨床基礎実習 I	1			45	45	45			45	○	1	
	臨床基礎実習 II	1			45	45	45			45	○	1	
臨床実習	2			90	90	90		90	90				
計	29			930	930	255	345	330	930		19		
単位数・時間数合計	139	1,575	60	960	2,655	900	900	855	2,655		38		

鍼灸学科(夜間部)

旧カリキュラム(2017年度生適用。2019年度現在、第3学年に適用)

実務経験のある教員等による授業科目
2019年度 単位数

科目	単位数	総時間数				学年別				実務経験のある教員等による授業科目		
		講義	演習	実技・実習	計	1年	2年	3年	計	2019年度	単位数	
基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活	臨床心理学	2	30			30	30		30			
	統計学	2	30			30	30		30			
	英語	2	30			30	30		30			
	中国語	2	30			30	30		30			
	栄養学	2	30			30	30		30			
	認知心理	1	15			15	15		15			
	情報処理	3	45			45	45		45			
計	14	210	0	0	210	120	90	0	210		0	
専門基礎分野 人体の構造と機能 疾病の成り立ちその 予防及び回復の 促進 保健医療福祉と はり及びきゅうの理念	解剖学Ⅰ	4	60			60	60		60			
	解剖学Ⅱ	3	45			45	45		45			
	解剖学Ⅲ	3	45			45	45		45			
	生理学Ⅰ	4	60			60	60		60			
	生理学Ⅱ	3	45			45	45		45			
	生理学Ⅲ	1	15			15	15		15			
	病理学概論	2	30			30	30		30			
	臨床医学総論	4	60			60	60		60			
	病態生理	1	15			15	15		15			
	臨床医学各論Ⅰ	3	45			45	45		45			
	臨床医学各論Ⅱ	4	60			60	60		60			
	臨床医学各論Ⅲ	3	45			45	45		45			
	リハビリテーション医学	2	30			30	30		30			
	公衆衛生学	2	30			30	30		30			
	関係法規	1	15			15	15		15	○	1	
医療概論	1	15			15	15		15				
計	41	615	0	0	615	225	240	150	615		1	
専門分野 基礎はりきゅう学 臨床はりきゅう学 社会はりきゅう学 総合領域 実技及び臨床実習	鍼灸理論Ⅰ	1	15			15	15		15			
	鍼灸理論Ⅱ	4	60			60	60		60			
	伝統医学概論Ⅰ	3	45			45	45		45			
	伝統医学概論Ⅱ	2	30			30	30		30			
	経絡経穴概論Ⅰ	5	75			75	75		75			
	経絡経穴概論Ⅱ	1	15			15	15		15			
	伝統医学臨床論	2	30			30	30	30	30	○	2	
	文献閲読	1	15			15	15		15			
	鍼灸業界教養	1	15			15	15		15			
	計	20	300	0	0	300	150	120	30	300		2
	各種鍼灸	1			30	30			30	30	○	1
	経営管理	1	15			15			15	15	○	1
	特別授業Ⅰ	5	75			75			75	75		
	特別授業Ⅱ	3	45			45			45	45		
	計	10	135	0	30	165	0	0	165	165		2
鍼灸実技Ⅰ	4			120	120	120		120				
鍼灸実技Ⅱ	4			120	120	120		120				
経絡経穴実技Ⅰ	1			30	30	30		30				
経絡経穴実技Ⅱ	1			30	30	30		30				
手技実技Ⅰ	1			30	30	30		30				
手技実技Ⅱ	1			30	30	30		30				
応用実技Ⅰ	1			30	30	30		30				
応用実技Ⅱ	1			30	30	30		30				
応用実技Ⅲ	3			90	90	90		90	90	○	3	
応用実技Ⅳ	3			90	90	90		90	90	○	3	
臨床実習	2			90	90	90		90	90	○	2	
計	22			690	690	180	240	270	690		8	
単位数・時間数合計	107	1,260	0	720	1,980	675	690	615	1,980		13	

2019 年度
学修要項(シラバス Syllabus)

ICM 国際メディカル専門学校
鍼灸学科（夜間部）第 1 学年
2019 年度入学生

科目名	中国語		
担当教員	孫犁冰	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	中国語とは、日本語と同じく漢字を用いる中国語を会話で楽しむ授業である。基本的な文法項目と発音を身につけ、中国語でのコミュニケーション能力を養う。近年、中国は産業・経済各方面において著しい成長が見られ、国際社会における存在感が高まりつつある。日本に近いようで遠い中国を知るためには、この授業はその第一歩である。		
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語の発音記号である「ピンイン」を正確に読むことができる。 ・単語、構文、文法について理解し、応用できる。 ・簡単な日常会話を中国語で話すことができる。 ・辞書を引きながら中国語の文章を日本語に訳すことができる。 		
学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会話ができるように復習やレポート課題に積極的に取り組むことができる。 ・中国語を学ぶことによって、国際視野が広がり、考える力をより一層高めることができる。 		
学習方法・学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、大きな声で音読する。 ・授業内容は録音、録画可。 		
関連科目			
持参物	黄色・水色・緑色のマーカー		
講義計画	講義内容		
1	ウォーミングアップ: 中国語学習の秘訣		
2	第1課 はじめまして(基本文15、新出語30)		
3	第2課 ありがとう(基本文15、新出語30)		
4	第3課 地図を買う(基本文15、新出語30)		
5	第4課 交流(基本文15、新出語30)		
6	第5課 いつ(基本文15、新出語30)		
7	第6課 どのぐらい(基本文15、新出語30)		
8	第7課 私の一日(基本文15、新出語30)		
9	第8課 家族写真(基本文15、新出語30)		
10	第9課 私の趣味(基本文15、新出語30)		
11	第10課 天気を語る(基本文15、新出語30)		
12	第11課 銀行にて(基本文15、新出語30)		
13	第12課 飛行機に乗る(基本文15、新出語30)		
14	第13課 道を尋ねる(基本文15、新出語30)		
15	第14課 タクシーに乗る(基本文15、新出語30)		
成績評価の方法と基準	<p>評価方法: 期末試験50%、小テスト30%、学習意欲(授業態度)20%</p> <p>評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。</p>		
使用テキスト	孫犁冰著『30日で身につけよう中国語会話』株式会社好朋友(2018)		
参考文献	特になし		

科目名	スタディスキルズ		
担当教員	山崎 史恵	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	前期
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	今後本学で授業や実習, 試験勉強等を進めていくうえで, 知っておくべき学習についての知識や身につけておくべき基礎的な能力を養う。また試験勉強等に積極的かつ自主的に取り組むためのモチベーションの維持や, 効率的な暗記法などにも触れる。		
科目の目標	本授業で学んだことを活かしながら, 各専門科目を能動的に受講できるようになること(聴く, 読む, 書く, 考える, 疑問を持つ)。また, 自宅学習(復習)や試験勉強においては積極的かつ自主的に, 工夫して課題に取り組めるようになること(調べる, 整理する, 覚える)。		
学習の到達目標	スタディスキルとはどのようなスキルかを具体的に説明できる 自分がどの程度スタディスキルを身につけているか現状を把握し, 課題を見つける 実際の授業や自習, 試験勉強などのシーンに関連づけて各スキルを実践できる		
学習方法・学習上の注意	本授業で学んだことを積極的に日々の授業で実践すること		
関連科目			
持参物			
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション スタディスキルとは?		
2	スタディスキルの現状—自己分析—		
3	記憶(記憶の仕組み, 復習の意義)		
4	記憶(暗記法, 定着のための工夫)		
5	学習(条件づけ, 習慣を身につける)		
6	学習(行動修正, 行動変容)		
7	思考(情報を調べる, 整理する)		
8	思考(問題解決, 柔軟な考え方)		
成績評価の方法と基準	評価方法: レポート70%, 学習意欲(出席状況含む)30% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	適宜プリントを配布		
参考文献			

科目名	コミュニケーション技法		
担当教員	中島 郁子	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	1. コミュニケーションの基本となる「聞く」ことについて、基礎を学ぶ 2. コミュニケーションに必要な「話す」ことについて学ぶ 3. 仕事の様々な場面にふさわしいコミュニケーションについて学ぶ		
科目の目標	コミュニケーションのスキルは、社会人として必要な能力である。様々な場面を想定したコミュニケーションの知識を学び、実践力を身につけることを目標とする。		
学習の到達目標	1. コミュニケーションの基本となる聞く力を養う 2. コミュニケーションに必要な話す力を養う 3. 仕事の様々な場面にふさわしいコミュニケーションを理解する		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布する。テキストとプリントに沿って授業を行う。 また、授業内で検定に向けた練習問題も行う。授業後、各自で復習すること。		
関連科目			
持参物	テキスト、ノート等		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	コミュニケーションを考える		
3	聞く力 目的に即して聴く		
4	聞く力 傾聴・質問する		
5	話す力 目的を意識する・話を組み立てる		
6	話す力 ことばを選び抜く		
7	話す力 表現・伝達する		
8	来客対応・電話対応		
9	アポイントメント・訪問・挨拶		
10	情報共有の重要性		
11	チーム・コミュニケーション		
12	接客・営業・クレーム対応		
13	会議・取材・ヒアリング・面接		
14	練習問題・復習		
15	試験		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	・ コミュニケーション検定初級 公式ガイドブック&問題集 (サーティファイ コミュニケーション能力認定委員会編)		
参考文献			

科目名	情報処理 I		
担当教員	小林 克明	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	Microsoft Word&Excelの操作方法を身につける		
科目の目標	WordとExcelの操作が自分の利用シーンに合わせて、不自由なくできるようになること。または、わからないことを自分なりに調べて知識を増やすことができるようになること。及び、メールの作成方法を身につけること。		
学習の到達目標	Word…インデントやタブを使って見栄えの良い定型文が作成できること。及び、図形や表を挿入して分かりやすい文章作成ができる。 Excel…目的に応じたデータベースを作成できること。簡単な関数ができること。		
学習方法・学習上の注意	内容が身につくように、操作をする時間をできるだけ多く取る。		
関連科目	情報処理 II		
持参物	毎回配るテキスト、筆記用具など		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	授業内容の説明、メールの送受信の練習、		
3	Word基礎(入力)		
4	Word編集、いろいろなコピー		
5	Word インデント、タブ		
6	Word 図形の挿入		
7	Word オリジナルカードの作成		
8	Word 表の挿入、確認問題		
9	Excel 表を作る、編集		
10	Excel 計算式の挿入、(手入力)		
11	Excel 計算式の挿入、(関数)		
12	Excel グラフの作成		
13	Excel データベース機能を使う		
14	Excel 印刷に関する各種設定		
15	Excel 確認問題		
成績評価の方法と基準	出席状況(学校の基準による)及び授業態度(真剣に取り組んでいるか)20%、提出物(有無、内容)10%、Word&Excelそれぞれ科目終了時の確認問題(授業の内容が理解できているか)70%		
使用テキスト	小林自作のテキストプリント		
参考文献	各問題集など		

科目名	情報処理Ⅱ		
担当教員	小林 克明	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	前期
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	Microsoft PowerPointの操作方法を身につける		
科目の目標	目的に応じて、わかりやすいプレゼンテーションを作成し、それをもとに発表をすること。		
学習の到達目標	自分の伝えたい内容を視覚的にわかりやすくまとめたスライドの作成ができる。また、それをもとに皆の前で発表ができる。		
学習方法・学習上の注意	実際に操作と発表に挑戦する		
関連科目	情報処理Ⅰ		
持参物	毎回配るテキスト、筆記用具など		
講義計画	講義内容		
1	PowerPoint スライド作成の基礎		
2	PowerPoint 入力の仕方		
3	PowerPoint スライドに表、グラフ、図形を追加する		
4	PowerPoint アニメーションの追加		
5	PowerPoint 練習問題		
6	PowerPoint 「自分について」のプレゼンテーション作成		
7	PowerPoint 作成したプレゼンテーションの発表		
8	PowerPoint 各自の発表とその感想をまとめる		
成績評価の方法と基準	出席状況(学校の基準による)及び授業態度(真剣に取り組んでいるか)20%、提出物(有無、内容)10%、プレゼンテーションの発表(プレゼンテーションに指定の内容が盛り込んでいるか。おもいっきり自分を表現できているか。元気に発表しているか)70%		
使用テキスト	小林自作のテキストプリント		
参考文献	市販の問題集など		

科目名	解剖学 I		
担当教員	影山 幾男	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 3単位	時間数	45時間
科目の概要	<p>人体解剖学では正常なヒトの構造について肉眼解剖学的に諸器官の形態学的特徴と人体の構造を理解する。「解剖学Ⅲ」では「神経解剖学」、「脈管学」の講義を扱う。「神経解剖学」では、刺激を伝達・統合する神経系の解剖学的特徴について学ぶ。「脈管学」では、物質運搬の交通網である脈管系について学ぶ。</p> <p>人体解剖学の理解には、ヒトのからだを系統別に分けて理解するだけでなく、ヒトの発生過程や脊椎動物の進化過程についても思いをめぐらし、形態形成学を学ぶことが肝心である。</p>		
科目の目標	人体の正常な形態と構造について学び、鍼灸師として必要な解剖学的知識を修得する。		
学習の到達目標	<p>神経解剖学の到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 脳神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。 ・ 脳脊髄神経と自律神経の違いについて説明できる。 ・ 脳と脊髄の基本的構造を説明できる。 <p>脈管学の到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動脈、毛細血管及び静脈の構造と血管系の役割を説明できる。 ・ 体循環と肺循環の2系統を説明できる。 ・ 心臓の基本構造と機能を説明できる。 ・ 動脈と静脈の流れの概略を説明できる。 ・ 上肢・下肢・体幹の血液循環の概略を説明できる。 ・ 胎児循環について説明できる。 ・ リンパ系の概要について説明できる。 <p>感覚器系の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚器について説明できる。 ・ 平衡聴覚器について説明できる。 ・ 味覚器について説明できる。 ・ 嗅覚器について説明できる。 ・ 皮膚について説明できる。 		
学習方法・学習上の注意	教科書を読んで理解できなかった事項について焦点をあてた講義を行うので、事前に配布する教科書「解剖学」の該当するページを熟読した上で、予備知識を持って講義に臨むこと。また、講義ごとに講義内容のプリントを配布する。		
関連科目	生理学、病理学		
持参物	教科書、配布プリント、小テスト		
講義計画	講義内容		
1	中枢神経系①: A神経系の基礎 1神経系の区分と特徴 2神経組織 a.神経細胞(ニューロン) b.神経細胞の種類 c.支持細胞、電話局の話		
2	中枢神経系②: 3灰白質、白質と神経節、根 4中枢神経系の区分		
3	中枢神経系③: 5脳室系 6髄膜と脳脊髄液 a.硬膜 b.クモ膜 c.軟膜		
4	中枢神経系④: 脳 1各部の形態と機能 a.終脳(大脳半球) 溝と回、中枢神経系の血管		
5	中枢神経系⑤: 脳 1各部の形態と機能 a.終脳(大脳半球) 機能局在		
6	中枢神経系⑥: 脳 1各部の形態と機能 a.終脳(大脳半球) 大脳基底核		
7	中枢神経系⑦: 脳 1各部の形態と機能 b.間脳 c.中脳、橋、延髄、d.小脳		
8	中枢神経系⑧: 脊髄 a.前根と後根(ベル・マジャンディーの法則) b.脊髄の内部構造		
9	中枢神経系⑨: 伝導路1 a.下行性伝導路		
10	中枢神経系⑩: 伝導路2 b.上行性伝導路 c.反射路		
11	末梢神経系① 1脳神経 I 嗅神経 II.視神経 III.動眼神経 IV.滑車神経の起始・走行・分布・障害		
12	末梢神経系② 1脳神経 V.三叉神経 VI.外転神経 VII.顔面神経の起始・走行・分布・障害		
13	末梢神経系③ 1脳神経 VIII.内耳神経 IX.舌咽神経 X.迷走神経 XI.副神経 XII.舌下神経の起始・走行・分布・障害		
14	末梢神経系④ 2脊髄神経 a.脊髄神経後枝 b.頸神経叢		
15	末梢神経系⑤ 2. 脊髄神経 c.腕神経叢 d.胸神経 e.腰神経叢		
16	末梢神経系⑥ 2. 脊髄神経 f.仙骨神経叢 g.陰部神経叢 h.尾骨神経 i.デルマトーム		
17	神経解剖学⑦: 3自律神経系 a.交感神経系 b.副交感神経系 c.関連痛		
18	脈管学①: A総論 1体循環と肺循環 a.肺循環 b.体循環 2血管の形態と構造 a.形態 b.構造 B心臓 1心臓の位置と形態 2心臓の構造 3心臓の弁 a.房室弁 b.動脈弁		
19	脈管学②: 4心臓壁の構造 a.心内膜 b.心筋層 c.心外膜 5刺激伝導系 a.洞房系 b.房室系 6心臓の脈管(冠状動脈・冠状静脈洞) a.右冠状動脈 b.左冠状動脈 c.冠状静脈洞 7心臓の神経 8心膜 a.線維性心膜 b.漿膜性心膜		
20	脈管学③: C心脈管系 C-1肺循環(小循環) C-2体循環(大循環) 1動脈系 a.大動脈 b.頭部、頸部の動脈 c.上肢の動脈 d.胸大動脈 e.腹大動脈 f.骨盤部の動脈 g.下肢の動脈		
21	脈管学④: 2静脈系 a.上大静脈 b.下大静脈 c.門脈 d.骨盤部の静脈 e.下肢の静脈		
22	脈管学⑤: 3胎児循環 Dリンパ系 1リンパ本幹 2リンパ性器官 a.リンパ節の構造 b.リンパ節の分布 c.脾臓 d.胸腺		
23	感覚器系: 視覚器、平衡聴覚器、皮膚、味覚器、嗅覚器		
成績評価の方法と基準	評価方法: 「客観試験」および「記述試験」(100%)を実施し、60点以上を合格とする。 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	「解剖学」第2版 医歯薬出版、河野邦雄、伊藤隆造他著		
参考文献	分担解剖学2、金原出版、平沢興著		

科目名	解剖学Ⅱ		
担当教員	小林 一広	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	前期
単位数	講義 3単位	時間数	45時間
科目の概要	解剖学は医療の基礎となる重要な学問である。医療を携わる上で、人体を構成する諸器官の形態と構造、それらの機能を理解することは必須である。 1.人体を構成する諸器官の形態や構造について学ぶ。 2.更に人体を総合的に理解するために、形態や構造と機能との関連性について学ぶ。		
科目の目標	人体を総合的に理解するために、人体を構成する諸器官の形態と構造と機能との関連知識を身につける。		
学習の到達目標	1. 人体を構成する諸器官について理解する。 2. 人体を構成する諸器官の形態について理解する。 3. 人体を構成する諸器官の構造について理解する。 4. 人体を構成する諸器官の形態や構造と機能との関連性について理解する。		
学習方法・学習上の注意	次回の講義について予習し、毎回講義をしっかり受講し、また講義後の復習も励行し、理解しておくこと。		
関連科目	生理学		
持参物	教科書(解剖学)、配布プリント、ノート		
講義計画	講義内容		
1	消化器全般の構成について理解する。		
2	消化管(口腔)の構造と機能を理解する。		
3	消化管(咽頭・食道)の構造と機能を理解する。		
4	消化管(胃)の構造と機能を理解する。		
5	消化管(小腸)の構造と機能を理解する。		
6	消化管(大腸)の構造と機能を理解する。		
7	消化器(肝臓)の構造と機能を理解する。		
8	消化器(膵臓・腹膜)の構造と機能を理解する。		
9	泌尿器(腎臓)の構造と機能を理解する。		
10	泌尿器(尿管・膀胱・尿道)の構造と機能を理解する。		
11	男性生殖器(精巣・精路)の構造と機能を理解する。		
12	男性生殖器(付属腺・外陰部)の構造と機能を理解する。		
13	女性生殖器(卵巣・卵管・子宮)の構造と機能を理解する。		
14	女性生殖器(膣・付属腺・外陰部)の構造と機能を説明する。性周期と分泌するホルモンを理解する。		
15	これまでの学習内容を復習し理解する。		
16	内分泌器(下垂体)の構造と機能を理解する。		
17	内分泌器(甲状腺・副腎)の構造と機能を理解する。		
18	内分泌器(膵臓・性腺)の構造と機能を理解する。		
19	呼吸器(鼻腔)の構造と機能を理解する。		
20	呼吸器(咽頭・喉頭・気管・気管支)の構造と機能を理解する。		
21	呼吸器(肺・胸膜・縦隔)の構造と機能を理解する。		
22	これまでの学習内容を復習し理解する。		
23	これまでの学習内容を復習し理解する。		
成績評価の方法と基準	評価方法:定期試験100% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	解剖学第2版(医歯薬出版)		
参考文献			

科目名	解剖学Ⅲ		
担当教員	進藤 千聖	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	人体の構造について学ぶ。主に運動器系(骨・筋肉・関節)を中心に行う。		
科目の目標	正常な人体の骨格を理解し、主要な部位を触ることができる。		
学習の到達目標	配布プリントの()埋めができるだけでなく、教員が口頭で伝えたことをメモする能力を身に付ける。		
学習方法・学習上の注意	字だけで覚えないこと。人体の構造について立体的にイメージしながら学習する。		
関連科目	鍼灸実技Ⅰ・経絡経穴概論・経穴実技Ⅰ・運動学・リハビリテーション医学 等		
持参物	実技道具一式(学校配布のもの)・必要に応じて患部を出せるような服装		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション・人体クイズ		
2～4	人体の構成		
5～7	運動器系(概要)		
8～12	上肢骨格		
13	中間試験・脊柱骨格		
14～17	脊柱骨格		
18～22	下肢骨格		
23～27	頭部骨格		
28～30	まとめ		
成績評価の方法と基準	<p>評価方法: 中間試験と期末試験を実施する。総合評価は中間試験の素点40%、期末試験の素点60%にて評価する。以下2点に当てはまった場合は、総合評価から減点する。</p> <p>①小テストの平均点が60%未満は10点 ②授業態度が悪い場合や出席率が1/2以下は5点</p> <p>評価基準: 学則に基づき、A(80点以上)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(60点未満)とする。</p>		
使用テキスト	なし		
参考文献	<p>解剖学第2版(医歯薬出版)</p> <p>整形外科がみえる(メディックメディア)</p>		

科目名	生理学 I		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 4単位	時間数	60 時間
科目の概要	生理学 I では日頃私たちが意識することなく働いている身体の仕組みについて学習します。例えば、心臓が動く仕組み、呼吸ができる仕組み、尿が出る仕組みなどです。このような働きは意識して変化するわけではありませんが、私たちの生命維持には欠かせない働きです。		
科目の目標	人の体の働きを学びます。私たちは寝ているときも体は活動しています。そのように、生理学 I では生命活動の仕組みについて学び理解します。正常な身体の仕組みを理解することは、例えば病気になったときに体のどこが悪いか理解することにも繋がります。		
学習の到達目標	生理学の基礎を学び、理解し、更に循環系・呼吸系・消化系・排泄系・内分泌系の生理機能について理解する。		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの記述に沿って授業を行う。欠席した場合、友人からプリントを借りるなどして、自分でしっかりフォローしておいて下さい。		
関連科目	解剖学、病理学、病態生理、臨床医学総論、臨床医学各論		
持参物	教科書(生理学)、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	導入、生理学の基礎		
2	生理学の基礎		
3~11	循環		
12~14	呼吸		
15~20	消化と吸収		
21~23	排泄		
24~29	内分泌		
30	総復習		
成績評価の方法と基準	評価方法: 試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	医歯薬出版株式会社 生理学		
参考文献	集中講義生理学 メジカルビュー社 新生理学 日本医事新報社		

科目名	生理学Ⅱ		
担当教員	新村孝雄	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	後期
単位数	講義 4単位	時間数	60 時間
科目の概要	生物が示す生命現象を理解し、様々な生命現象が協調と統制によって人体生活動が維持されていることを理解する。特に、生理学を学んだ後に病態生理・臨床医学各論とつながるように暗記に頼らず理解をして、最終目標である鍼灸臨床で患者に説明できるような活用できる知識を習得する。		
科目の目標	患者に人体の正常な状態はどのような状態であるか自らの言葉で表現できるようになる。その後、2年次には生理学や解剖学をベースとして病態生理を学び患者にその病態を説明できるようにする。		
学習の到達目標	生理学の基礎を学び、栄養と代謝・体温・生殖・成長と老化・神経・筋・運動・感覚が身体の中で何が起きているのかを理解できるようにする。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントと教科書をもとに講義		
関連科目	病理学概論：学習した生理機能の問題が病理となるため、生理学知識の復習を行う。 病態生理：生理・病理を踏まえて病態生理が成立するため、生理学知識の復習を行う。 臨床医学各論：総まとめとして、生理学知識の復習を行う。		
持参物			
講義計画	講義内容		
1～3	体温		
4～7	代謝		
8～11	生殖・成長と老化		
12～19	神経		
20～23	感覚		
24～26	筋		
27～29	運動		
30	まとめ、問題演習		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	医歯薬出版株式会社 生理学		
参考文献	医学書院 標準生理学		

科目名	公衆衛生学		
担当教員	大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年生	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	公衆衛生学の概論を学ぶ。最新のデータに基づき、医療技術者として知っておくべき基礎的な教養を学習する。		
科目の目標	医療技術者として、また一般教養としての公衆衛生学を学習し、患者さんに対して説明する際知識を活用できるようにする。医療技術者としての基礎素養として、他の医療技術者と共通認識できるようにする。 また国家試験科目であり国家試験を合格できるレベルをしっかりと固める。		
学習の到達目標	医療技術者として必要となる公衆衛生学の知識を習得し、チーム医療の一員として他の医療技術者と共通認識できるようにするとともに国家試験問題に対応できるようにする。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントの復習		
関連科目	生理学、医療概論、関係法規、臨床医学各論		
持参物	配布プリント、筆記用具		
講義計画	講義内容		
1～2	衛生学・公衆衛生学の意義・健康		
3～4	ライフスタイルと健康		
5～6	環境と健康		
7	産業保健		
8	精神保健		
9	母子保健		
10	母子保健、成人・高齢者保健		
11～12	感染症		
13	消毒法		
14	疫学、保健統計		
15	国際保健		
成績評価の方法と基準	評価方法：中間試験と期末試験の平均点(90%)、授業態度(5%)、出席状況(5%) 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	公衆衛生が見える：MEDIC MEDIA、配布プリント		
参考文献	衛生学・公衆衛生学 第2版：医歯薬出版		

科目名	医療概論		
担当教員	横手 雄徳	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年生	開講学期	前期
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	医療人の基礎教養として、医学の歴史及び現代の医療制度ならびに医療倫理について学習する。		
科目の目標	医療制度は一般的な基礎教養であり、医療人として患者さんに有益な情報を常に提供できるように熟知する。また、医療制度は絶えず改正されるため、常に最新の情報を収集し、知識を得るように心がける。		
学習の到達目標	日常の鍼灸臨床において、基本的な鍼灸の歴史について患者さんから問われることは少なくない。知識を自分のものとして、自分の言葉で説明できるように理解する。		
学習方法・学習上の注意	遅刻・欠席・忘れ物をしない。		
関連科目	関係法規、伝統医学概論、衛生学・公衆衛生学		
持参物	教科書、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	医学史序説・西洋医学の歴史		
2	西洋医学の歴史		
3	東洋医学の歴史		
4	日本の医学の歴史		
5	現代の医療制度		
6	現代の医療制度		
7	医療倫理		
8	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法: 筆記試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	配布プリント		
参考文献	『医療概論』: 医歯薬出版株式会社		

科目名	経絡経穴概論		
担当教員	佐々木 勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 6単位	時間数	90時間
科目の概要	<p>施術部位の基本となり、診断の部位ともなる経絡経穴について学習する。流注や経穴の場所及び局所の解剖を交えて、各経絡経穴を学習する。 主として十四経脈(正経十二経脈・任脈・督脈)と要穴について学び、後半には奇穴および奇経八脈についても触れる</p>		
科目の目標	<p>経穴名を言われて、その経穴がどの経絡に属し、凡そどの部位にあるのか指し示すことができるようにする。また、流注がイメージとして頭に入り、各経絡がどの部位を走行し、どの部位で接続しているかを理解できるようにする。要穴をしっかり覚える。</p>		
学習の到達目標	<p>指定された経穴を正確に取ることができるようにする。また、要穴や特効穴の知識を活用し、患者の病態に応じた選穴を考えられるようにする。</p>		
学習方法・学習上の注意	配布したプリントの整理		
関連科目	<p>①伝統医学概論: 経絡経穴学は、伝統医学における主要学説の1つである ②伝統医学臨床論: 病態に応じた選穴には、経絡経穴学の知識が必要となる ③実技各種: 病態に応じた選穴をし、そこに施術するためには、その経穴を取るための知識・技術が必要となる</p>		
持参物	教科書 ノート 筆記用具 配布プリント		
講義計画	講義内容		
1～6	経絡経穴の基礎、経脈・経穴		
7～10	督脈の流注、経穴		
10～13	督脈の流注経穴、任脈の流注経穴		
14～16	肺経の流注経穴、大腸経の流注経穴		
17～21	胃経の流注経穴、脾経の流注経穴		
22～24	心経の流注経穴、小腸経の流注経穴		
25～31	膀胱経の流注経穴、腎経の流注経穴		
32～35	心包経の流注経穴、三焦経の流注経穴		
36～39	胆経の流注経穴・肝経の流注経穴		
40	十四経まとめ復習		
41～42	要穴奇穴		
43～44	奇経八脈、難行六九難		
45	復習		
成績評価の方法と基準	<p>評価方法: 試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。</p>		
使用テキスト	教科書(経絡経穴概論)		
参考文献	東洋医学概論(株式会社医道の日本社)		

科目名	伝統医学概論Ⅰ		
担当教員	横手 雄徳	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	歴史的背景や哲学観をふまえ、東洋医学的な人体の解剖生理や病理について学ぶ。 (医学体系の中で完成された考え方を理解することで、西洋医学と異なる部分や共通する部分を理解する。)		
科目の目標	東洋医学的な考えから人体の解剖生理とこれらによって生じた病状について説明することができるようになる。		
学習の到達目標	患者の病状について、東洋医学的な観点から説明できるようになる。		
学習方法・学習上の注意	特有の漢字にルビをふる		
関連科目	伝統医学概論Ⅱ、経穴経絡概論、伝統医学臨床論、鍼灸理論		
持参物	教科書、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション・東洋医学の歴史【第1章】		
2	東洋医学のルーツと現代までの歴史【第1章】		
3	人体の見方・東洋医学的治療・日本の東洋医学の現状【第1章】		
4	陰陽学説・五行学説【第3章】		
5	五行学説【第3章】・精【第2章】		
6	気【第2章】		
7	血・津液【第2章】		
8	生体物質の相互関係(気血津液まとめ)【第2章】		
9	神・人体における陰陽【第2章】		
10	陰陽学説・五行学説・精・気・血・津液・人体における陰陽のまとめ		
11	臓腑(概要・臓象学説の要点)【第2章】		
12	臓腑(肝・胆)【第2章】		
13	臓腑(心・小腸・心包)【第2章】		
14	臓腑(脾・胃)【第2章】		
15	臓腑(肺・大腸)【第2章】		
16	臓腑(腎・膀胱)【第2章】		
17	臓腑(三焦)・五臓相互関係【第2章】		
18	病因病機【第2章】		
19	肝の病証・胆の病証・肝と胆の相互関係【第2章】		
20	心の病証・小腸の病証・心と小腸の相互関係【第2章】		
21	脾の病証・胃の病証・脾と胃の相互関係【第2章】		
22	肺の病証・大腸の病証・肺と大腸の相互関係【第2章】		
23	腎の病証・膀胱の病証・腎と膀胱の相互関係【第2章】		
24	五臓相互関係による病証【第2章】		
25	五臓相互関係による病証【第2章】		
26	五臓相互関係による病証【第2章】		
27	五臓相互関係による病証【第2章】		
28	経絡【第2章】		
29~30	まとめ		
成績評価の方法と基準	評価方法:筆記試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『新版 東洋医学概論』 医道の日本社		
参考文献	『わかりやすい臨床中医臓腑学』 医歯薬出版		

科目名	鍼灸理論 I		
担当教員	大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年生	開講学期	前期
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	鍼灸の歴史、鍼灸施術で用いられる道具やその名称、また鍼灸施術に際しての注意事項などを学習する。		
科目の目標	鍼灸の道具の名称、扱い方、用法やその適用・禁忌を学び、今後の実習で実際に扱うための基礎を築く		
学習の到達目標	鍼灸を今後、安全・確実に行うにあたっての基礎を築くとともに、その内容を理解する。		
学習方法・学習上の注意	鍼灸の適用・禁忌のみならず過誤についての対処法を確実に覚える。		
関連科目	鍼灸実技 I・II、東洋医学概論 I・II、経絡経穴概論、衛生学・公衆衛生学		
持参物	配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	概論・鍼の名称		
2	刺鍼の方式		
3	特殊鍼法		
4	灸術の基礎・灸術の種類		
5	鍼灸の適応症		
6~7	鍼療法の過誤・灸療法の過誤		
8	感染症対策		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験(90%)、授業態度(5%)、出席状況(5%) 評価基準: 学則に従い A(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	はりきゅう理論: 医道の日本社、配布プリント		
参考文献	はりきゅう実技: 医道の日本社		

科目名	鍼灸業界教養		
担当教員	佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	後期
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	鍼灸学校や鍼灸の教育制度、最低限の法規、世界の現状、学会の現状を客観的に学習する。		
科目の目標	日本の鍼灸業界、世界の鍼灸業界、鍼灸と親和性の高い柔道整復業界などの現状を学ぶ。また、情報収集の方法についても学ぶ。		
学習の到達目標	業界について鍼灸師以外の人に説明できるようになる。また、書籍や雑誌などから情報収集できるようになる。		
学習方法・学習上の注意	課題やレポートの提出期限に注意すること		
関連科目	関係法規		
持参物	ノート、筆記用具		
講義計画	講義内容		
1	鍼灸の資格・法律Ⅰ		
2	鍼灸の資格・法律Ⅱ		
3	保険制度		
4	柔道整復業界の現状・制度		
5	鍼灸の教育制度		
6	海外の現状		
7	鍼灸学会・業団体		
8	レポート課題、図書室の使い方		
成績評価の方法と基準	評価方法: レポートの評価(80%)、出席状況20% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	プリント配布		
参考文献	関係法規、社会あはき学、医道の日本(雑誌)		

科目名	医学補完 I		
担当教員	専任教員(分担)	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年生	開講学期	通年
単位数	2	時間数	30
科目の概要	オリエンテーションおよび解剖学・生理学・伝統医学概論・経絡経穴概論など各科目の補完として講義を行う		
科目の目標	モチベーションを高めるとともに、1年次の科目の補完を行い、知識を定着させる		
学習の到達目標	各科目の重要ポイントをおさえる 違う科目であっても共通する分野の知識を関連付ける		
学習方法・学習上の注意	1年次の各科目の復習をしっかりと行う		
関連科目	解剖学、生理学、伝統医学概論、経絡経穴概論		
持参物	教科書		
講義計画	講義内容		
1～4	オリエンテーション		
5～8	解剖学		
9～11	生理学		
12～13	伝統医学概論		
14～15	経絡経穴概論		
成績評価の方法と基準	評価方法: レポート及び提出物(60%)、授業態度(20%)、出席状況(20%) 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	解剖学: 医歯薬出版株式会社 生理学: 医歯薬出版株式会社 新版 東洋医学概論: 医道の日本社 新版 経絡経穴概論: 医道の日本社		
参考文献			

科目名	鍼灸実技 I		
担当教員	御書隆之 横手雄徳	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	実技 5単位	時間数	150時間
科目の概要	施術者としての心構え、身だしなみ、消毒法を含めた衛生上の注意点。 基本的な刺鍼方法、施灸方法を練習する。		
科目の目標	身だしなみチェック表、衛生チェック表を用いて常に清潔な状態を保つことができる。 基本的な刺鍼(管鍼法、撚鍼法)、施灸ができる。		
学習の到達目標	身だしなみ、消毒法が教員が指導しなくてもできる。 消毒法から、施鍼・施灸までの各動作を身体で覚え動けるようにする。 経穴に正確に取穴するための基本的な刺鍼、施術動作が身につく。 各施術を安全に効率的かつ適度な刺激を加えられるようする。		
学習方法・学習上の注意	適宜チェックを行い、技術到達をチェックする。 人体に対する施術が主となるので、内出血や火傷などのリスク管理に注意して行う。		
関連科目	鍼灸理論、経絡経穴概論、解剖学、公衆衛生学、臨床基礎実習、臨床実習、各種実技		
持参物			
講義計画	講義内容		
1	道具の確認および使い方、身だしなみ、衛生チェック		
2	管鍼法		
3	両手挿管、片手挿管		
4	刺鍼練習(直刺)		
5	刺鍼練習(斜刺、横刺)		
6、7	十七手技、撚鍼法		
8	刺鍼練習(軟鍼)		
9～11	人体刺鍼、復習		
12	経過チェック		
12、13	前腕－三陰経・三陽経ランドマーク		
14～20	前腕部経穴への取穴・刺鍼・施灸①		
21～22	督脈・任脈 ランドマーク 取穴		
23～29	前腕－三陰経・ランドマーク 取穴・刺鍼・施灸		
30～36	前腕－三陽経・ランドマーク 取穴・刺鍼・施灸③		
37	経過チェック		
38	身だしなみ、衛生チェック、道具の確認及び使い方、透熱灸の捻り方(米粒大)		
39	施灸時の姿勢、灸の捻り方(米粒大)、火のつけ方、消し方、温度測定		
40～42	基礎施灸 100壮 米粒大、半米粒大 姿勢、捻り方、火のつけ方チェック、温度測定→竹台練習		
43	灸経過チェック 予行演習(竹に1分間で10壮)		
44～46	基礎施灸 100壮 半米粒大 人体施灸 透熱灸(自分へ)※灸点紙使用→直接		
47	灸経過チェック 予行演習(竹に1分間で10壮 知熱灸1分間で3壮)		
48～49	基礎施灸 100壮 人体施灸 相手へ 湧泉、失眠		
50	灸経過チェック 予行演習(竹に1分間で10壮 知熱灸1分間で3壮) 隔物灸(生姜)		
51	鍼の確認、片手挿管、押手、灸チェック(竹に1分間で10壮)		
52～53	下腿前面の体表解剖 ランドマーク、筋の触診、刺鍼、施灸		
54～55	下腿後面の体表解剖、ランドマーク、筋の触診、刺鍼、施灸		
56～57	大腿前面の体表解剖、ランドマーク、筋の触診、刺鍼、施灸		
58～59	大腿後面の体表解剖、ランドマーク、筋の触診、刺鍼、施灸		
60～61	膝関節の体表解剖、ランドマーク、筋の触診、刺鍼、施灸		
62	足関節の体表解剖、ランドマーク、筋の触診、刺鍼、施灸		
63～64	下腿前面の取穴、刺鍼、施灸		
65～66	下腿後面の取穴、刺鍼、施灸		
67	大腿部の取穴、刺鍼、施灸		
68～69	膝関節の取穴、刺鍼、施灸		
70	足関節の取穴、刺鍼、施灸		
71	足背外側部の取穴、刺鍼、施灸		
72	足背内側部の取穴、刺鍼、施灸		
73～74	試験前練習		
75	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	鍼灸実技(基礎編)、経絡経穴概論、配布プリント		
参考文献	はりきゆう理論		

科目名	経絡経穴実技 I		
担当教員	佐々木 勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	後期
単位数	実技・実習 1単位	時間数	30時間
科目の概要	経絡経穴概論 I の学習と合わせながら、その部位の確認を行う。特に解剖学で学習した人体のランドマーク部位を具体的に触れながら、取穴位置の確認を行う。		
科目の目標	経絡経穴概論 I では十四経脈を各経脈ごとで学ぶが、本科目では要穴が多く存在する前腕と下腿の三陰・三陽経を中心に、複数の経脈を同時に取穴する。そこから同じ高さにある経穴や、経脈の位置関係などを体感することで知識を定着させる。		
学習の到達目標	臨床では一つの経脈のみの使用では治療が成立しにくい。従って、本科目を通じて複数の経脈を同時に使えるようにする。		
学習方法・学習上の注意	三陰・三陽経の走行部位を、蛍光ペンで人体に書いてみて位置関係を理解する。		
関連科目	①経絡経穴概論 I :この科目を基礎とする ②実技各種:病態に応じた選穴をし、そこに施術するためには、その経穴を取るための知識・技術が必要となる		
持参物	教科書 ノート 筆記用具 実技道具 配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	前腕－三陰経の取穴		
2	前腕－三陰経の取穴		
3	前腕－三陽経の取穴		
4	前腕－三陽経の取穴		
5	下腿－三陽経の取穴		
6	下腿－三陽経の取穴		
7	下腿－三陰経の取穴		
8	下腿－三陰経の取穴		
9	背部－督脈・膀胱経・小腸経・奇穴の取穴		
10	背部－督脈・膀胱経・小腸経・奇穴の取穴		
11	背部－督脈・膀胱経・小腸経・奇穴の取穴		
12	腹部－任脈・胃経・腎経・脾経の取穴		
13	腹部－任脈・胃経・腎経・脾経の取穴		
14	腹部－任脈・胃経・腎経・脾経の取穴		
15	試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	教科書(経絡経穴概論)		
参考文献	東洋医学概論(株式会社医道の日本社) はりきゅう実技(基礎編)(株式会社医道の日本社)		

科目名	手技実技 I		
担当教員	横手雄徳	実務経験の有無及び経歴	鍼灸あん摩マッサージ指圧師として臨床現場に従事
対象学年	1年生	開講学期	後期
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	マッサージやあん摩の基礎理論の学習と鍼灸施術する際の基本的な筋肉の触診、および経絡(または経穴)などについて、徒手手技を通して学習する。またここでの学習を通し施術ができる手指のトレーニングをしていく。		
科目の目標	筋肉の触り方と同時に、その部位に存在する経絡を意識することで、鍼灸臨床の一助となるようにする。		
学習の到達目標	他人の体への触り方に慣れる。基本手技を反復練習することで施術に必要な手指の感覚と持久力を養い、身体全体の施術をバランスよくできるようにする。		
学習方法・学習上の注意	手技を施す際の姿勢、力の入れ具合に注意する。また、筋や経絡の位置の理解を深める。		
関連科目	各種実技、解剖学、経絡経穴概論		
持参物	配布プリント、手拭いまたはタオル		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	基本手技 (軽擦法、揉捏法)		
3	基本手技 (圧迫法、叩打法)		
4	基本手技 (振せん法、曲手)		
5	基本手技 (復習)		
6	背部指圧①		
7	背部指圧②		
8	上肢あん摩①		
9	上肢あん摩②		
10	下肢マッサージ①		
11	下肢マッサージ②		
12	吸角療法		
13	実技復習		
14	期末試験 (前半)		
15	期末試験 (後半)		
成績評価の方法と基準	評価方法: 実技試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	プリント		
参考文献	『あん摩マッサージ指圧実技』(基礎編): 東洋療法学校協会		

科目名	臨床基礎実習 I		
担当教員	角田朋之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	実技 1単位	時間数	45 時間
科目の概要	臨床実習を行う前に、治療院の準備や運営、施術の流れ、施術後の道具の処理などを学ぶ。		
科目の目標	治療院の実際の現場で、施術を行う前の準備から、施術後の片付け等、施術者がやる内容を見学し、実践を行う。		
学習の到達目標	治療院で働く心構えや基本姿勢、基本的な動きができるようになる。		
学習方法・学習上の注意	身だしなみには十分注意する。		
関連科目	臨床基礎実習 II、臨床実習、実技		
持参物			
講義計画	講義内容		
1	清掃業務		
2	受付業務		
3	電話対応		
4～5	ロールプレイ		
6	ゴミの分別、器具の消毒		
7	タオルワーク、枕ワーク		
8	助手としての動き		
9	ベッドメイク		
10	物理療法の機器の使い方		
11～12	中間試験		
13～21	ロールプレイ		
22～23	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	なし		
参考文献	実践ビジネスマナー		

2019 年度
学修要項(シラバス Syllabus)

ICM 国際メディカル専門学校
鍼灸学科（夜間部）第 2 学年
2018 年度入学生

科目名	心理学		
担当教員	中島 郁子	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	1. 面接の意義を理解する 2. 身体症状について臨床心理学的に必要な知識を身につける 3. 面接についての知識を身につける 4. 事例検討について理解する		
科目の目標	臨床心理面接の基礎を学び、患者さんの話の聞き方、見立ての立て方、相談に患者さんを理解するために必要な面接の行い方を身につけることを目標とする。		
学習の到達目標	1. 面接の意義を理解する 2. 身体症状について臨床心理学的に必要な知識を身につける 3. 面接についての知識を身につける 4. 事例検討について理解する		
学習方法・学習上の注意	テキストに沿って、発表形式で授業をすすめる。 各自、担当箇所(初回の授業時に決定)については、特によく予習し準備すること。		
関連科目			
持参物	テキスト、ノート等		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	方法としての面接		
3	面接をどう始めるか		
4	「わかる」ということ		
5	身体症状と症例		
6	不登校児童の臨床事例		
7	面接の進め方		
8	「ストーリー」を読む		
9	見立て		
10	家族の問題		
11	劇としての面接		
12	面接とケース・スタディ		
13	子どもの臨床事例		
14	身体症状を訴える女性の臨床事例		
15	試験		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	・新訂 方法としての面接 臨床家のために 土居健郎著 医学書院		
参考文献			

科目名	マーケティング		
担当教員	須佐 修一	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	治療院を開業・運営するために、基礎的な事業計画の作成・市場調査・税務手続き・資金調達・資金運用・法務等々を学ぶ。卒業後すぐに、独立開業を目指し、基礎的な運営術を学ぶ。		
科目の目標	マーケティング・リサーチ、ブランド戦略、価格戦略、ターゲティングなどマーケティングの基本を学び、基礎的な経理用語の習得、個人事業主として事業計画書・開業届を作成し、経理書類を作成することが出来る。		
学習の到達目標	マーケティングの必要性を学習し、ビジネスでマーケティングに取り組むために必要な基礎知識を学び、併せて鍼灸院経営の基礎を学ぶ。		
学習方法・学習上の注意	テキストを中心に、みんなが良く知っている事例をマーケティング視点で学習する。授業の中で、リアルタイムで発表をフィードバックする。		
関連科目			
持参物			
講義計画	講義内容		
1	マーケティングとは何か(事例研究)		
2	マーケティングにおける市場分析		
3	自社を取り巻く環境チェック(自社の分析)		
4	マーケティングの基本戦略(市場の細分化)		
5	" (広告効果を測る)		
6	新製品・新サービスを開発するマーケティング		
7	" (価格設定のテクニック)		
8	いまある商品を売るマーケティング		
9	ブランド戦略のためのマーケティング		
10	" (人を魅了するブランドづくり)		
11	Webマーケティングの基礎知識		
12	マーケティングを学んで(個人・グループ)ディスカッション		
13	鍼灸院の開業知識を身につけよう(諸手続き)		
14	コンセプトを決めよう		
15	事業計画書の作成、関連税務、法規を学ぶ		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験60%、授業態度・学習意欲(出席状況を含む)40% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	図解&事例で学ぶマーケティングの教科書		
参考文献	コトラーのマーケティング30 ・ マーケティング戦略 コトラーのマーケティング入門 ・ 鍼灸院経営術 ; 富田秀徳		

科目名	英語		
担当教員	米田 春美	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	鍼灸治療を英語で行うための基礎英語表現と語彙を学ぶ。		
科目の目標	外国人が鍼灸治療を受けに来た際、また、海外で鍼灸治療を行う際に対応できる英語力を養う。		
学習の到達目標	患者の訴えを理解するための身体や症状に関する語彙、また、施術や指導する際に必要な英語表現を口頭で言える力を身に着ける。		
学習方法・学習上の注意	積極的に英語会話訓練に参加する姿勢が求められる。また、語彙を蓄えるためのカード作成及び提出を怠らない。		
関連科目			
持参物	テキストとして使用する資料、語彙学習用のカード		
講義計画	講義内容		
1	語彙①人体各部の名称:外部器官 会話①電話での予約		
2	語彙②人体各部の名称:筋骨格系 会話②初診		
3	語彙③人体各部の名称:内部器官(1) 会話③問診		
4	語彙④人体各部の名称:内部器官(2) 会話④治療を行いながらの会話や指示		
5	語彙⑤診療科名 会話⑤灸治療の会話		
6	語彙⑥症状:風邪、インフルエンザ、消化器系 会話⑥電気灸治療の会話		
7	語彙⑦症状:その他の症状と兆候 会話⑦問診用の様々な表現		
8	語彙⑧主な病気 会話⑧便利な表現、よくある質問と答え方		
9	語彙⑨産婦人科系病気 会話⑨鍼灸治療に使う基本動詞のまとめ		
10	語彙⑩外傷と救急 鍼灸学基礎理論の英語(1)		
11	語彙⑪鍼灸による治療効果がWHOに承認されている疾患 鍼灸学基礎理論用語の英語(2)		
12	筆記試験および口頭試験対策総復習 (1)		
13	筆記試験および口頭試験対策総復習 (2)		
14	口頭試験実施		
15	筆記試験実施		
成績評価の方法と基準	評価方法:筆記試験60%、課題提出5%、小テスト5%、口頭試験30% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	語彙、会話表現、英語対訳付問診票によって構成される資料		
参考文献	Easy Nursing English(南山堂) クリスティーンのやさしい看護英会話(医学書院)		

科目名	解剖生理 I		
担当教員	進藤 千聖	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 3単位	時間数	45時間
科目の概要	1年次に履修した解剖学と生理学を系統別に学習する。		
科目の目標	各系統ごとに正常な構造および機能を理解し、説明できる。		
学習の到達目標	1年次に使用した資料や教科書等を含め、自主的にまとめを行うことができる。		
学習方法・学習上の注意	字だけで覚えない。「身体のどの辺りで何が行われているのか」というイメージをしながら学ぶ。		
関連科目	解剖学 I・II、生理学 I・II、臨床医学総論、臨床医学各論 I・II・III		
持参物	教科書・筆記用具(色ペン複数本)・配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション・循環器系		
2～6	循環器系		
7～11	消化器系		
12～16	内分泌		
17	中間試験・呼吸器系		
18～20	呼吸器系		
21～23	泌尿器系		
成績評価の方法と基準	<p>評価方法: 中間試験と期末試験を実施する。総合評価は中間試験の素点から40%、期末試験の素点から60%にて評価する。以下2点に当てはまった場合は、総合評価から減点する。</p> <p>①小テストの平均点が50%未満であった場合は10点 ②授業態度が悪い場合や出席率が1/2以下の場合、5点</p> <p>評価基準: 学則に基づき、A(80点以上)、B(70～71点)、C(60～61点)、D(60点未満)とする。</p>		
使用テキスト	なし		
参考文献	解剖学第2版(医歯薬出版) 生理学第3版(医歯薬出版)		

科目名	解剖生理Ⅱ		
担当教員	岩村英明	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 3単位	時間数	45時間
科目の概要	1年次に学習した解剖学と生理学のまとめと統合を行う。 解剖生理Ⅱでは「体温」、「生殖・成長・老化」、「神経」、「筋」、「運動」、「感覚」を扱う。		
科目の目標	同一分野での解剖と生理の統合を行い、病態把握など臨床での鑑別能力の基礎となる知識をしっかりと定着させる。		
学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体温に関する内容について知識を定着させる。 2. 生殖・成長・老化に関する内容について知識を定着させる。 3. 神経に関する内容について知識を定着させる。 4. 筋に関する内容について知識を定着させる。 5. 運動に関する内容について知識を定着させる。 6. 感覚に関する内容について知識を定着させる。 		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの記述に沿って授業を行う。予習・復習はしっかり行う。		
関連科目	解剖学、生理学		
持参物	教科書(解剖学、生理学)、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	体温		
2～3	生殖・成長・老化		
4～11	神経		
12～13	復習		
14	筋		
15～17	運動		
18～22	感覚		
23	復習		
成績評価の方法と基準	<p>評価方法: 試験80%、学習意欲・授業態度(出席状況を含む)20%</p> <p>評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。</p>		
使用テキスト	<p>解剖学 第2版(医歯薬出版株式会社)</p> <p>生理学 第3版(医歯薬出版株式会社)</p>		
参考文献			

科目名	運動学		
担当教員	角田朋之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	30 時間
科目の概要	運動学は人の動き(movement)、動作(motion)を主として対象とする学問であり、解剖学、生理学、力学などを基礎にする。		
科目の目標	運動を可能にしている構造とその機構(mechanism)を理解する。		
学習の到達目標	1. 運動学の理念について理解する。□ 2. 運動学の基礎についての知識を身につける。□ 3. 身体各部の機能を理解する。□		
学習方法・学習上の注意	教科書の音読、出題形式のプリントを配布し、回答させて後に解説を行う。予習と復習をさせる。		
関連科目	解剖学 生理学		
持参物	教科書(リハビリテーション医学)、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	関節と運動の力学		
2	姿勢とその異常		
3	運動路と感覚路		
4	反射と随意運動		
5	脊柱と体幹の機能		
6	肩甲帯と肩の機能①		
7	肩甲帯と肩の機能②		
8	肘と前腕の機能		
9	手と手指の機能		
10	骨盤と股関節の機能		
11	膝関節の機能①		
12	膝関節の機能②		
13	足の機能		
14	正常歩行と異常歩行		
15	顔面および頭部の筋		
成績評価の方法と基準	評価方法: 試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	リハビリテーション医学(医歯薬出版株式会社)		
参考文献	リハビリテーション医学(南江堂) リハビリテーション医学テキスト(南江堂) リハビリテーションビジュアルブック(学研メディカル秀潤社) 標準リハビリテーション医学(医学書院)		

科目名	病理学概論		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	30 時間
科目の概要	1年生では正常構造や機能を系統的に学びましたが、2年生でこれから学ぶ病理学概論はこれらの基礎医学系科目と、今後登場する臨床医学系科目とをリンクさせる重要な役割を担う科目です。人体の疾病についての原因や病態などが考察できる基礎的な病理学的知識を習得します。		
科目の目標	概要でも述べたように、人体の疾病についての原因や病態などが考察できる、基礎・基本的な病理学的知識を習得すること。このような知識を習得し今まで漠然としていた疾病への理解を深めていきます。		
学習の到達目標	1. 病理学とは何かを理解する。2. 疾病の分類について覚える。3. 病因について覚える。4. 循環障害について理解する。5. 退行性病変について理解する。6. 進行性病変について理解する。7. 炎症について理解する。8. 腫瘍について理解する。9. 免疫異常・アレルギーについて理解する。10. 先天性異常について理解する。		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの記述に沿って授業を行う。 欠		
関連科目	生理学、衛生学、臨床医学総論、臨床医学各論、はりきょう理論		
持参物	配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	病理学の定義と分類～予後及び転帰		
2	病因①		
3	病因②		
4	病因③、循環障害①		
5	循環障害②		
6	循環障害③、退行性病変		
7	進行性病変		
8	中間試験		
9	炎症①		
10	炎症②		
11	腫瘍①		
12	腫瘍②		
13	腫瘍③、免疫異常・アレルギー①		
14	免疫異常・アレルギー②、染色体異常①		
15	先天性異常		
成績評価の方法と基準	評価方法: 試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。 試験結果を総合的にみて成績評価を行う。中間試験結果が60%未満の者には確認試験を、行い、期末試験結果で60%未満の者には再試験を行います。		
使用テキスト	『病理学概論 第2版』: 医歯薬出版株式会社		
参考文献	アンダーウッド 病理学 西村書店、カラーで学べる 病理学 NOUVELLE HIROKAWA		

科目名	臨床医学総論		
担当教員	角田朋之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 4単位	時間数	60 時間
科目の概要	全身的・局所的の各診察方法や所見を学ぶ。また、鍼灸治療に来院される患者の適応・不適応を鑑別ポイントを学ぶ。		
科目の目標	患者の病態から疾患を推測し、鍼灸治療の適応・不適応を鑑別できるようになる。		
学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者と鍼灸師の良好な人間関係構築の重要性を理解する。 2. 病歴聴取と身体所見の取り方を理解し、それを診察録に記録する重要性を理解する。 3. 各々の症状に対する病歴聴取と診察を理解する。 		
学習方法・学習上の注意	必要な部分はプリント配布、器具を使用し、実践的に学ぶ。		
関連科目	臨床医学各論、病理学、解剖学、生理学		
持参物	教科書(リハビリテーション医学)、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション 診察の概要		
2～3	バイタルサイン		
4～9	全身の診察		
10	中間試験1・局所の診察		
11～18	局所の診察		
19	中間試験2・神経系の診察		
20～26	神経系の診察		
27～28	その他の診察		
29	まとめ		
30	まとめ・期末試験		
成績評価の方法と基準	<p>評価方法: 試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10%</p> <p>評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。</p>		
使用テキスト	東洋療法学校協会編『臨床医学総論』		
参考文献	東洋療法学校協会編『臨床医学各論』		

科目名	臨床医学各論 I		
担当教員	角田朋之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	講義 3単位	時間数	45時間
科目の概要	臨床各科の代表的な疾患を学び、これまで学習してきた西洋医学的基礎に基づき疾患を鑑別し病態を理解する。		
科目の目標	代表疾患の病態生理を理解し、類似疾患との鑑別ができるようにする。特に、緊急を要する疾患や鍼灸適応不適応の鑑別ができるようにする。そして、患者様に病態を説明して理解と同意を得られるようにする。		
学習の到達目標	感染症・消化管疾患・肝胆膵疾患・呼吸器疾患それぞれの病態生理を理解し、特徴的な所見を理解すること。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントを毎回持ってくること。		
関連科目	全ての西洋医学的基礎分野が、関連科目となる。解剖・生理から始まり、最終段階としての臨床医学各論となる。基礎の学習が不十分では、ここで学習が困難となる。基礎が不十分であると感じる場合適宜復習をして授業に望ませるよう指導を行う。		
持参物	配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	プロローグ/感染のメカニズム		
2~3	感染の防御システム		
4~5	細菌感染症		
6	ウイルス感染症		
7	性感染症/その他の感染症		
8	消化管疾患でみられる主要症状		
9	口腔疾患・食道疾患/悪性腫瘍概論		
10~11	胃十二指腸解剖生理/胃十二指腸疾患		
12~13	大腸解剖生理/大腸疾患/腹膜疾患		
14~15	肝臓解剖生理/肝疾患主要症状/肝疾患		
16~17	胆嚢解剖生理/胆疾患/胆嚢・胆道疾患		
18	膵臓解剖生理/膵臓疾患		
19	呼吸器解剖生理/呼吸器主要症状		
20	感染性呼吸器疾患/閉塞性呼吸器疾患		
21	閉塞性呼吸器疾患/拘束性呼吸器疾患		
22	気胸/肺癌		
23	その他の肺疾患		
成績評価の方法と基準	評価方法: 試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『臨床医学各論第2版』 医歯薬出版社		
参考文献	『病気がみえる』『ビジュアルノート』 メディックメディア社 『病態生理でできた内科学』 医学教育出版社		

科目名	リハビリテーション医学		
担当教員	岩村英明	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	1. リハビリテーションの概念、リハビリテーションに関わる医療従事者、障害の評価、リハビリテーション医療などについて学ぶ。 2. 各疾患のリハビリテーションを学ぶ。		
科目の目標	リハビリテーションとは何かを理解し、リハビリテーション医学・医療についての知識を身につける。		
学習の到達目標	1. リハビリテーションの理念について理解する。 2. 障害のとらえ方について理解する。 3. 身体障害者の動向についての知識を身につける。 4. リハビリテーションチームを構成するメンバーの職種について理解する。 5. 障害の各種評価方法を覚える。 6. 医学的リハビリテーションとしてどのような療法があるのか、またその内容について覚える。 7. 各疾患のリハビリテーションの内容について理解する。		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの記述に沿って授業を行う。予習・復習はしっかり行う。		
関連科目	解剖学、生理学、臨床医学総論、臨床医学各論		
持参物	教科書(リハビリテーション医学)、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1～3	リハビリテーションと障害、リハビリテーション医学と医療		
4～5	心身機能・身体構造の評価		
6	活動の評価、合併症の評価、運動麻痺の評価		
7	運動年齢テスト、失行失認テスト、心理的評価		
8	理学療法(運動療法)		
9	理学療法(物理療法)、作業療法、言語聴覚療法		
10～11	補装具		
12～13	復習		
14～15	脳卒中のリハビリテーション		
16～17	脊髄損傷のリハビリテーション		
18～19	切断のリハビリテーション		
20～21	小児のリハビリテーション		
22～23	骨関節疾患のリハビリテーション		
24	関節リウマチのリハビリテーション		
25	末梢神経障害のリハビリテーション		
26	パーキンソン病のリハビリテーション		
27	呼吸器疾患のリハビリテーション		
28	心疾患のリハビリテーション		
29～30	復習		
成績評価の方法と基準	評価方法: 試験80%、学習意欲・授業態度(出席状況を含む)20% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	リハビリテーション医学(医歯薬出版株式会社)		
参考文献	リハビリテーション医学(南江堂) リハビリテーション医学テキスト(南江堂) リハビリテーションビジュアルブック(学研メディカル秀潤社) 標準リハビリテーション医学(医学書院)		

科目名	伝統医学概論Ⅱ		
担当教員	大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年生	開講学期	前期
単位数	2	時間数	30
科目の概要	伝統医学概論Ⅰで学習した基礎知識に加えて、東洋医学的な診断に必要な知識である望聞問切を学習することで患者の状態を把握し、施術方針を考えることができるようにする。		
科目の目標	東洋医学的な施術を行うための基礎を身につける。また診察・病態把握・診断・治療方針の決定・施術といった一連の流れを作れるようにする。		
学習の到達目標	伝統医学概論Ⅰで学習した内容と合わせて東洋医学的な施術に必要な知識を覚え、実際の施術で使えるようにする。		
学習方法・学習上の注意	伝統医学概論Ⅰの学習内容の復習 診断に必要な知識を日常生活の中で使う習慣を作る		
関連科目	伝統医学概論Ⅰ、経絡経穴概論、伝統医学臨床論、伝統鍼灸診察実技、伝統鍼灸実技、臨床実習		
持参物	配布プリント、筆記用具		
講義計画	講義内容		
1～2	望診		
3	聞診		
4～6	基本的問診事項		
7～8	その他問診事項		
9～10	切診		
11～12	弁証		
13～14	論治		
15	まとめ		
成績評価の方法と基準	評価方法：中間試験と期末試験の平均点(90%)、授業態度(5%)、出席状況(5%) 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『新版 東洋医学概論』：医道の日本社		
参考文献	『詳解 中医基礎理論』：東洋学術出版社 『新装版 中医学入門』：東洋学術出版社 『中医学ってなんだろう ①人間のしくみ』：東洋学術出版社		

科目名	鍼灸理論Ⅱ		
担当教員	佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	前期
単位数	講義 3単位	時間数	45時間
科目の概要	鍼灸の治療効果とそのメカニズムを学習する。		
科目の目標	治効・作用機序を、解剖・生理・病理を基礎として学習し理解する。		
学習の到達目標	国家試験のはり理論(10問)・きゅう理論(10問)と最も関わる重要で部分であるため、しっかりと学習し最低限の知識は習得する。		
学習方法・学習上の注意	根気よく学習を進める		
関連科目	解剖学・生理学・病理学		
持参物	教科書、ノート、筆記用具		
講義計画	講義内容		
1	ガイダンス		
2～3	鍼灸治効の基礎(Ⅰ)		
4～5	鍼灸治効の基礎(Ⅱ)		
6～7	鍼灸治効の基礎(Ⅲ)		
8～10	鍼灸治効の基礎(Ⅳ、Ⅴ)		
11～12	鍼灸治効の基礎(Ⅵ、Ⅶ)		
13	治効基礎の復習まとめ		
14～15	鍼灸療法の一般治効理論(Ⅰ、Ⅱ)		
16	鍼灸療法の一般治効理論Ⅲ		
17	鍼灸療法の一般治効理論Ⅳ		
18～20	関連学説(Ⅰ、Ⅱ)		
21～22	関連学説(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)		
23	総まとめ		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『はりきゅう理論』医道の日本		
参考文献	『生理学』医師薬出版		

科目名	体表観察		
担当教員	岩村英明	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	体表より触診することができるランドマークの実技学習を行う。また、解剖学的ランドマークの確認以外に、経穴の確認なども行う。		
科目の目標	身体の代表的な部位を体表解剖で理解し、部位名およびその部位がどこなのかを示すことができる。		
学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下肢の代表的なランドマークを触察により適切に捉えることができるようになる。 2. 上肢の代表的なランドマークを触察により適切に捉えることができるようになる。 3. 体幹部の代表的なランドマークを触察により適切に捉えることができるようになる。 		
学習方法・学習上の注意	教員のデモンストレーション後2人ないし3人1組となり、触察によりランドマークを確認し、実際に体表にマーカーなどでスケッチする。予習復習はしっかり。忘れ物をしないこと。		
関連科目	解剖学、経絡経穴概論		
持参物	教科書(解剖学、経絡経穴概論)、鍼灸道具一式、マーカー(水性)		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2～4	膝・下腿の体表解剖(骨・筋・経穴)		
5～7	上肢帯・上腕の体表解剖(骨・筋・経穴)		
8～10	前腕の体表解剖(骨・筋・経穴)		
11～13	体幹部の体表解剖(骨・筋・経穴)		
14	試験		
15	試験		
成績評価の方法と基準	<p>評価方法:試験80%、学習意欲・授業態度(出席状況を含む)20%</p> <p>評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。</p>		
使用テキスト			
参考文献			

科目名	文献阅读		
担当教員	渡邊 真弓	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	前期
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	現代医学と伝統医学(鍼灸など)の最大の差は、後者は(中国)哲学に立脚する点である。それ故、東アジア文化圏独特の哲学に親しむべく現代中国文献を中心として阅读をおこなう。教養として、中国の歴史・地理も学ぶ。		
科目の目標	中国古典・現代中国語は外国語であり、その構造は日本語よりもむしろ英語に近い。文章嫌いにならず、辞書を使って自分なりに読み解く能力を身につける。時間に余裕があれば中英を比較する。		
学習の到達目標	漢和辞典・中国語の辞書などを使い、外国語文献の大意を把握できる。		
学習方法・学習上の注意	辞書を忘れないように		
関連科目	中国語		
持参物	中日辞典など		
講義計画	講義内容		
1	中国語辞典の使い方・気虚について・文化素養1		
2	中国語辞典の使い方・血虚について・文化素養2		
3	陽虚・陰虚について・文化素養3		
4	臓腑弁証について・文化素養4		
5	臓腑間弁証について・文化素養5		
6	日本文献について		
7	長文中国語文献		
8	まとめ・テスト		
成績評価の方法と基準	平常点40%、口頭試問(小テストを含む)30%、試験30% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	王財源著「わかりやすい 臨床中医実践弁証トレーニング 第2版」・プリント		
参考文献	「わかりやすい臨床中医診断学第2版」「わかりやすい臨床中医臓腑学第3版」		

科目名	就職実務		
担当教員	横手 雄徳	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年生	開講学期	後期
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	求職登録の仕方、ビジネスマナーの習得、就職活動への流れを理解する		
科目の目標	求職登録をする		
学習の到達目標	求職登録をし、就職活動を円滑に行えるようになる		
学習方法・学習上の注意	自分の考えをアウト・プットし、より明確にしていく。他の人の話を聴く傾聴の訓練にもなるので、しっかり聴くこと。		
関連科目			
持参物	プリント		
講義計画	講義内容		
1	就職活動の流れ		
2	ビジネスマナー		
3	志望動機を考える		
4	自己PRを考える		
5	理想の鍼灸師像を考える		
6	履歴書を書いてみる		
7	模擬面接		
8	求職登録面接		
成績評価の方法と基準	評価方法: 試験30%、学習意欲(授業態度)40%、出席状況30% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	iPadテキスト「動画で学ぶ就活ナビ」		
参考文献	マイナビHP https://job.mynavi.jp/ ビジネス文書&マナー大事典 学研		

科目名	医学補完Ⅱ		
担当教員	専任教員	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 1単位	時間数	15時間
科目の概要	オリエンテーションおよび、東洋医学、西洋医学各科目の補完として講義を行う		
科目の目標	1年次の復習と2年次の科目の補完を行い、知識を定着させる		
学習の到達目標	各科目の重要項目の確認と知識の定着		
学習方法・学習上の注意	各授業の復習をしっかりと行う		
関連科目	解剖学・生理学・伝統医学概論・経絡経穴概論・運動学・病理学・臨床医学総論・臨床医学各論・リハビリテーション医学・鍼灸理論		
持参物	教科書		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2～4	専門基礎分野及び専門分野の補完(東洋医学系科目)		
5～8	専門基礎分野及び専門分野の補完(西洋医学系科目)		
成績評価の方法と基準	評価方法:レポート及び提出物(60%)、授業態度(20%)、出席状況(20%) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	配布プリント及び各科目教科書(事前に指示する)		
参考文献	解剖学(医歯薬出版株式会社)・生理学(医歯薬出版株式会社)・東洋医学概論(株式会社医道の日本)・経絡経穴概論(株式会社医道の日本)・運動学(医歯薬出版株式会社)・病理学(医歯薬出版株式会社)・臨床医学総論(医歯薬出版株式会社)・臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)・リハビリテーション医学(医歯薬出版株式会社)・鍼灸理論(株式会社医道の日本)		

科目名	鍼灸実技Ⅱ		
担当教員	岩村英明 角田朋之 大槻健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	実技 5単位	時間数	150時間
科目の概要	頭頸部や体幹部の経穴に対し刺鍼・施灸の練習を行なう。 中国鍼基本技術と要穴・補寫を覚える。艾について理解を深める。 筋肉に対して低周波鍼通電療法(パルス刺鍼)を行う。		
科目の目標	1年次で学んだ基本技術を円滑に行えるようにし、かつ、その他の施術方法を学ぶことで3年次の臨床実習の現場に立つことができるようにする。		
学習の到達目標	1. 頭部や体幹部に対し、安全に刺鍼・施灸が行えるようになる。また、一年次に行った上下肢に対する刺鍼・施灸も引き続き安全に行えるようにする。 2. 中国鍼基本技術と要穴・補寫法のマスター。灸頭鍼、艾について理解を深める。 3. 低周波鍼通電療法(パルス刺鍼)を安全に行えるようにする。上下肢筋の起始・停止・作用・支配神経、パルスの作用・禁忌を覚える。		
学習方法・学習上の注意	頭頸部や体幹部の経穴について、取穴部位を確認したのち二人または三人一組となって刺鍼・施灸練習を行う。部位によっては気胸などの恐れもあるので注意する。 対象となる筋肉の起始・停止・神経・作用を復習し、対象の筋肉へしっかりと刺鍼できるように練習する。 授業内で経穴の小テストを実施する。 実技道具、教科書を毎回持つてくること。		
関連科目	解剖学・経絡経穴概論・鍼灸理論・臨床実習・各種実技		
持参物			
講義計画	講義内容		
1～2	導入、頭部の刺鍼		
3～6	肩部の刺鍼と施灸		
7～8	上下肢の刺鍼と施灸		
9～12	背部の刺鍼と施灸		
13～14	上下肢の刺鍼と施灸		
15～18	腰部の刺鍼と施灸		
19～20	胸腹部の刺鍼と施灸		
21～24	腹部の刺鍼と施灸		
25～26	顔面部・頭部の刺鍼		
27～28	復習		
29～30	実技試験		
31	ガイダンス、愈穴①		
32	愈穴②、基本実技確認		
33	愈穴③、刺鍼練習		
34	愈穴④、刺鍼練習		
35	愈穴⑤、刺鍼練習		
36	愈穴⑥、刺鍼練習		
37	要穴①、補寫		
38	要穴②、中国鍼練習		
39	要穴③、中国鍼練習		
40	要穴④、中国鍼練習		
41	要穴⑤、艾について		
42	要穴⑥灸頭鍼		
43	まとめ復習		
44	筆記試験、実技復習		
45	実技試験		
46	オリエンテーション・デモンストレーション		
47～49	上腕部のパルス		
50～52	前腕部のパルス		
53～55	大腿部のパルス		
56～58	下腿部のパルス		
59～60	中間チェック		
61～63	腰部のパルス		
64～66	肩背部のパルス		
67～70	上肢のパルス		
71～73	下肢のパルス		
74～75	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法：岩村；実技試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 角田；実技試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 大槻；期末試験80%、小テスト10%、授業態度5%、出席状況5% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	はりきゅう実技(基礎編)(医道の日本社)、経絡経穴概論(医道の日本社)、配布プリント		
参考文献	経穴インパクト(医道の日本社) 運動・からだ図解 経絡・ツボの基本(株式会社マイナビ) はり入門(医道の日本社) はりきゅう理論(医道の日本社) 解剖学第2版(医歯薬出版株式会社)		

科目名	経絡経穴実技Ⅱ		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	前期
単位数	実技 1単位	時間数	30 時間
科目の概要	これまでに学んできたランドマーク、経絡経穴の取穴の確認です。		
科目の目標	経絡経穴概論で学んできた経穴を、スムーズに、かつ正確に取穴できるようにします。		
学習の到達目標	これまで学んできた経穴を熟知した上で、臨床の現場で活用できるようにします。		
学習方法・学習上の注意	経絡経穴概論で学んだ経穴を各部位ごと別けて取穴していきます。		
関連科目	経絡経穴概論Ⅰ・Ⅱ、実技、これらの科目を基礎とします。		
持参物	教科書。3色以上の蛍光ペン。5mmのカラーシール		
講義計画	講義内容		
1	前腕－三陰経・三陽経の取穴(奇穴を除く)		
2	下腿－三陰経・三陽経の取穴(奇穴を除く)		
3	背部－督脈・膀胱経・小腸経・奇穴の取穴		
4	腹部－任脈・胃経・脾経・腎経・奇穴の取穴		
5～8	頭部の正穴の取穴・顔面部の正穴の取穴・頸部の正穴の取穴・頭頸部の奇穴の取穴		
9	上肢部と下肢部の奇穴の取穴		
10	奇穴の復習(頭頸部・上肢部・下肢部)		
11	難経六十九難・八会穴・四総穴・下合穴・八脈交会穴の取穴		
12	難経六十九難・八会穴・四総穴・下合穴・八脈交会穴の取穴		
13	難経六十九難・八会穴・四総穴・下合穴・八脈交会穴の取穴		
14-15	期末試験 ①難経六十九難・八会穴・四総穴・下合穴・八脈交会穴・奇穴の取穴 ②口頭試問		
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『新版 経絡経穴概論』:東洋療法学校協会		
参考文献			

科目名	手技実技Ⅱ		
担当教員	大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸あん摩マッサージ指圧師として臨床現場に従事
対象学年	2年生	開講学期	後期
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	鍼灸施術する際の基本的な筋肉の触診、および経絡(または経穴)などについて、徒手手技を通して学習する。またここでの学習を通し施術ができる手指のトレーニングをしていく。		
科目の目標	筋肉の触り方と同時に、その部位に存在する経絡を意識する事で、鍼灸臨床の一助となるようにする。		
学習の到達目標	他人の体への触り方に慣れる。基本手技を反復練習することで施術に必要な手指の感覚と持久力を養い、身体全体の施術をバランスよくできるようにする。		
学習方法・学習上の注意	手技を施す際の姿勢・力の入れ具合に注意する。また、筋や経絡の位置の理解を深める。		
関連科目	解剖学・経絡経穴概論・鍼灸実技・臨床実習		
持参物	配布プリント・筆記用具		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション・基本手技の確認		
2～5	背部・上肢・下肢に対する手技・経絡・経穴の確認		
6～7	フェイスマッサージ		
8～9	リフレクソロジー		
10～11	トリガーポイント		
12～13	モビライゼーション		
14	まとめ		
15	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	配布プリント		
参考文献	『あんまマッサージ指圧理論』: 東洋療法学校協会 『鍼療法図鑑普及版』: ガイアブックス 『ノンスラストによる関節モビライゼーション』: 緑書房		

科目名	現代鍼灸検査実技		
担当教員	角田朋之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	実技 1単位	時間数	30 時間
科目の概要	病態把握のために必要な身体診察及び理学検査について学ぶ。		
科目の目標	身体診察および理学検査の臨床意義や陽性所見を理解し、行えるようにする。		
学習の到達目標	3年次の臨床実習にむけて、医療面接および身体診察から病態把握ができる基礎を身につける。		
学習方法・学習上の注意	3年次の臨床実習にむけて、医療面接および身体診察から病態把握ができる基礎を身につける		
関連科目	臨床医学総論、臨床医学各論、リハビリテーション医学、臨床実習、応用実技Ⅲ		
持参物	筆記用具、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション／頸部の診察法		
2	肩関節の診察法①		
3	肩関節の診察法②		
4	上肢深部腱反射、頸肩腕痛の診察法		
5	肘・前腕痛の診察法		
6	復習		
7	腰痛・腰下肢の診察、股関節痛の診察、下肢深部腱反射①		
8	腰痛・腰下肢の診察、股関節痛の診察、下肢深部腱反射②		
9	膝関節痛の診察①		
10	膝関節痛の診察②		
11	脳神経の診察		
12	病的反射、髄膜刺激症状の検査、運動失調の検査		
13～15	復習		
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	関連科目教科書、配布プリント		
参考文献	鍼灸療法技術ガイドⅠ 文光堂 徒手検査インパクト 医道の日本社		

科目名	伝統鍼灸診察実技		
担当教員	佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	鍼灸実技ⅠⅡで学習した内容を基に、補瀉実技や伝統医学的な診察術を学ぶ		
科目の目標	弁証論治が行えるように反復練習を通して一連の流れを学習する		
学習の到達目標	3年次の臨床実習で、診察を行い病態把握が行えるようにする		
学習方法・学習上の注意	医療過誤、事故に十分注意して行う。		
関連科目	東洋医学概論、経絡経穴概論		
持参物	教科書、ノート、筆記用具		
講義計画			
1	ガイダンス		
2	脈診・腹診・経穴反応		
3	脈診・腹診・経穴反応2		
4	症例1 要穴		
5	症例2 要穴		
6	症例3 要穴		
7	症例4 要穴		
8	脈診・腹診・経穴反応3		
9	艾の知識、灸の応用		
10	症例5 要穴		
11	症例6 要穴		
12	復習		
13	復習		
14	筆記試験、実技復習		
15	実技試験		
成績評価の方法と基準	評価方法：実技試験50%、筆記試験30%、レポート提出10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	プリント配布の予定		
参考文献	東洋医学概論(医道の日本社)、経絡経穴概論(医道の日本社)		

科目名	臨床実習前実技		
担当教員	角田朋之 佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	四大疾患を中心に病態把握、鑑別診断、基本的な取穴を学習する。		
科目の目標	3年次に行う臨床実習に必要な基礎を習得する。		
学習の到達目標	1年次で学んだ基本技術を円滑に行える。四大疾患を中心に疾患の鑑別と病態把握を学習し、3年次の臨床実習の現場に立つことができるようにする。		
学習方法・学習上の注意	二人ないし三人一組となって検査法・刺鍼・施灸練習を行う。指示された以外の部位への刺鍼や治療行為は禁止とする。		
関連科目	鍼灸理論 経絡経穴概論 経絡経穴実技 解剖学 臨床医学総論		
持参物			
講義計画	講義内容		
1	実技授業における注意事項など		
2	上肢の刺鍼・施灸(1年生の復習)		
3	下肢の刺鍼・施灸(1年生の復習)		
4	ガイダンス、肩関節痛について		
5	肩関節の鑑別、治療		
6	頸肩腕痛について		
7	頸肩腕痛の鑑別、治療		
8	肩関節痛・頸肩腕痛 復習		
9	腰下肢痛について		
10	腰下肢痛鑑別、治療		
11	膝関節痛について		
12	膝関節痛の鑑別、治療		
13	腰下肢痛、膝関節痛 復習		
14	まとめ		
15	試験		
成績評価の方法と基準	評価方法: 実技試験60%、筆記試験30%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	はりきゅう実技〈基礎編〉(医道の日本社)		
参考文献	はりきゅう理論(医道の日本社)・経絡経穴概論(医道の日本社)		

科目名	臨床基礎実習Ⅱ		
担当教員	岩村英明	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	実習 1単位	時間数	45時間
科目の概要	治療院の実際の現場で、患者対応や接遇などについて学ぶ。		
科目の目標	基本的な接遇やマナーを身に付け、3年次の臨床実習で患者の状況を把握しながら細かな配慮が行えるようにする。		
学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療現場で求められる態度や患者に対する配慮を身につける。 2. 適切な態度で患者から最低限必要な情報を質問することができるようになる。 3. 患者に不快感を与えることなく触診をすることができるようになる。 4. 触察により患者の状態を正確に捉えることができるようになる。 		
学習方法・学習上の注意	髪や爪など、身だしなみには十分注意を払う。		
関連科目	臨床基礎実習Ⅰ、臨床実習、鍼灸実技、手技実技、体表観察、現代鍼灸検査実技、伝統鍼灸検査実技		
持参物	筆記用具、クリップボード		
講義計画	講義内容		
1～9	鍼灸臨床における医療面接の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・患者を迎え入れる前の準備 ・医療面接の導入 ・医療面接のはじめかたと対話の実際 ・面接に必要な態度と技法 ・ロールプレイ 		
10～11	中間試験(実技チェック)		
12～21	触診 <ul style="list-style-type: none"> ・触診の基本 ・筋肉、骨の触診 ・皮膚の陥凹探し ・ロールプレイ 		
22～23	期末試験(実技チェック)		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲・授業態度(出席状況を含む)20% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト			
参考文献	鍼灸臨床における医療面接(医道の日本社) 治療家の手の作り方ー反応論・触診学試論ー(六然社)		

2019 年度
学修要項(シラバス Syllabus)

ICM 国際メディカル専門学校
鍼灸学科（夜間部）第3学年
2017 年度入学生
(※旧カリキュラム適用)

科目名	臨床医学各論Ⅱ		
担当教員	福井 徹哉	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	3年	開講学期	前期
単位数	講義 4単位	時間数	60時間
科目の概要	臨床各科の代表的な疾患を学び、これまで学習してきた西洋医学的基礎に基づき疾患を鑑別し、病態を理解する。		
科目の目標	代表疾患の病態生理を理解し、類似疾患との鑑別ができるようにする。特に、緊急を要する疾患や鍼灸適応不適応の鑑別ができるようにする。そして患者さんに病態を説明して理解と同意を得られるようにする。		
学習の到達目標	整形外科疾患・泌尿器疾患・内分泌疾患・代謝疾患・循環器疾患・血液疾患それぞれの病態整理を理解し、特徴的な所見を理解すること。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントを毎回持参すること。		
関連科目	全ての西洋医学基礎分野が関連科目となる。解剖学・生理学から始まり、最終段階としての臨床医学各論となる。基礎の学習が不十分では、ここで学習が困難となる。基礎が不十分である場合は適宜復習をして授業に臨ませよう指導をする。		
持参物	配布プリントを毎回持参すること。		
講義計画	講義内容		
1	腎臓解剖生理・原発性糸球体腎炎・アレルギー反応		
2	原発性糸球体腎炎・腎不全		
3	感染性疾患・結石		
4	前立腺肥大		
5	内分泌解剖生理		
6	下垂体疾患		
7	甲状腺疾患		
8	副腎疾患		
9	糖代謝異常		
10	脂質代謝異常		
11	尿酸代謝異常		
12	ビタミン欠乏症		
13	総論・関節疾患		
14	骨代謝異常		
15	筋・腱疾患		
16	形態異常		
17	脊椎疾患		
18	脊髄損傷		
19	外傷		
20	その他の整形外科疾患		
21	心臓解剖生理		
22	心不全・心臓弁膜症		
23	不整脈・先天性疾患		
24	冠動脈疾患		
25	動脈疾患・血圧異常		
26	造血管解剖生理		
27	赤血球疾患		
28	白血球疾患		
29	リンパ疾患・出血素因		
30	まとめ		
成績評価の方法と基準	評価方法:章ごとのテスト40%、期末試験50%、出席率5%、授業態度5%で評価する。 評価基準:学則に従い、A評価80点以上、B評価70～79点、C評価60～69点、D評価60点未満とする。		
使用テキスト	臨床医学各論第2版(医歯薬出版)		
参考文献	病気がみえる・ビジュアルノート(メディックメディア)／病態生理できた内科学(医学教育出版) 標準整形外科学第10版(医学書院)／講義録運動器学第2版(MEDICAL VIEW)		

科目名	臨床医学各論Ⅲ		
担当教員	福井 徹哉	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	3年	開講学期	後期
単位数	講義 3単位	時間数	45時間
科目の概要	臨床各科の代表的な疾患を学び、これまで学習してきた西洋医学的基礎に基づき疾患を鑑別し、病態を理解する。		
科目の目標	代表疾患の病態生理を理解し、類似疾患との鑑別ができるようにする。特に、緊急を要する疾患や鍼灸適応不適応の鑑別ができるようにする。そして患者さんに病態を説明して理解と同意を得られるようにする。		
学習の到達目標	神経疾患・膠原病・その他の疾患それぞれの病態整理を理解し、特徴的な所見を理解すること。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントを毎回持参すること。		
関連科目	全ての西洋医学基礎分野が関連科目となる。解剖学・生理学から始まり、最終段階としての臨床医学各論となる。基礎の学習が不十分では、ここで学習が困難となる。基礎が不十分である感じる場合は適宜復習をして授業に臨ませよう指導をする。		
持参物	配布プリントを毎回持参すること。		
講義計画	講義内容		
1～5	脳解剖生理		
6	感染症疾患		
7	脳脊髄腫瘍		
8	基底核変性腫瘍		
9	認知症		
10	運動ニューロン疾患		
11	末梢神経疾患		
12	神経痛・頭痛		
13	膠原病		
15	食物・アレルギー・血清病		
16	一般外科		
17	麻酔科		
18	婦人科疾患		
19	皮膚科疾患		
20	眼科疾患		
21	耳鼻科疾患		
22	精神疾患		
23	まとめ		
成績評価の方法と基準	評価方法：章ごとのテスト40%、期末試験50%、出席率5%、授業態度5%で評価する。 評価基準：学則に従い、A評価80点以上、B評価70～79点、C評価60～69点、D評価60点未満とする。		
使用テキスト	臨床医学各論第2版(医歯薬出版)		
参考文献	病気がみえる・ビジュアルノート(メディックメディア) 病態生理でできた内科学(医学教育出版)		

科目名	公衆衛生学		
担当教員	大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	3年生	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	公衆衛生学の概論を学ぶ。最新のデータに基づき、医療技術者として知っておくべき基礎的な教養を学習する。		
科目の目標	医療技術者として、また一般教養としての公衆衛生学を学習し、患者さんに対して説明する際知識を活用できるようにする。医療技術者としての基礎素養として、他の医療技術者と共通認識できるようにする。 また国家試験科目であり国家試験を合格できるレベルをしっかりと固める。		
学習の到達目標	医療技術者として必要となる公衆衛生学の知識を習得し、チーム医療の一員として他の医療技術者と共通認識できるようにするとともに国家試験問題に対応できるようにする。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントの復習		
関連科目	生理学、医療概論、関係法規、臨床医学各論		
持参物	配布プリント、筆記用具		
講義計画	講義内容		
1～2	衛生学・公衆衛生学の意義・健康		
3～4	ライフスタイルと健康		
5～6	環境と健康		
7	産業保健		
8	中間試験・精神保健		
9	精神保健・母子保健		
10	母子保健、成人・高齢者保健		
11	感染症		
12	消毒法		
13	疫学、保健統計		
14	国際保健		
15	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法：中間試験と期末試験の平均点(90%)、授業態度(5%)、出席状況(5%) 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	公衆衛生が見える：MEDIC MEDIA、配布プリント		
参考文献	衛生学・公衆衛生学 第2版：医歯薬出版		

科目名	関係法規		
担当教員	角田朋之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	後期
単位数	講義 1単位	時間数	15 時間
科目の概要	医療従事者として、知っておかなければならない法律と罰則を学習します。		
科目の目標	医療の分野において安心して安全な医療を享受・提供する上で関係法規は必要不可欠な科目です。医療従事者として、知っておかなければならない法律と罰則を理解し遵法できるようにします。		
学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法の体系について把握する。 2. あはき師免許の資格要件について覚える。 3. あはき師免許に関する事務などについて覚える。 4. あはき師の身分の消滅と復活について覚える。 5. あはき師の業務独占、業務範囲、施術に関する注意について覚える。 6. あはき師の施術所などに関する規制について覚える。 7. あはき業務の停止について覚える。 8. 施術者等に関する罰則、施術所に関する罰則、両罰規定について覚える。 9. 医療法などについて覚える。 10. 社会福祉(保険)関係の法律について覚える。 		
学習方法・学習上の注意	プリントの記述に沿って授業を行う。欠席した場合、友人からプリントを借りるなどして、自分でしっかりフォローしておいて下さい。公衆衛生学や医療概論の授業ででてくる法律とも重なってくるので、各自それらの授業の復習も行っておいて下さい。		
関連科目	公衆衛生学、医療概論		
持参物	教科書(関係法規)、プリント		
講義計画	講義内容		
1	法とは何か		
2	免許と試験		
3	業務の独占と業務の範囲 ～ 業務の停止		
4	無免許営業の取り締まり ～ 罰則		
5	医療法 ～ その他の医療従事者に関する法律		
6	薬事法規、衛生関係法規		
7	社会福祉関係法規、社会保険関係法規		
8	その他の関係法規		
成績評価の方法と基準	<p>評価方法: 試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10%</p> <p>評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。</p>		
使用テキスト	『関係法規 第7版』: 医歯薬出版株式会社		
参考文献			

科目名	伝統医学臨床論		
担当教員	大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年生	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	30時間
科目の概要	伝統医学概論Ⅰ・Ⅱ、応用実技Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎知識や診断方法を基に日本の鍼灸現場で多い疾患を中心に疾患の各論を学習する。		
科目の目標	各疾患が伝統医学の観点からどのような病理で起こっているかを理解し、その治療方針を学ぶ。		
学習の到達目標	患者が訴える症状からその病態を推測し、どの治療方針が最適であるかを決められるようにする。		
学習方法・学習上の注意	配布したプリントおよび伝統医学概論の基礎知識の復習		
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、伝統医学概論Ⅰ・Ⅱ、経絡経穴概論Ⅰ・Ⅱ、応用実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床医学総論、臨床医学各論、臨床実習		
持参物			
講義計画	講義内容		
1	治療原則		
2	刺法		
3～4	特定穴の応用・配穴法①		
5～6	徒手検査法		
7	全身の症候・症例		
8	皮膚・外表、感覚器の症候・症例		
9	頸部、腰下肢の症候・症例		
10	呼吸・循環器の症候・症例		
11	消化器、腎泌尿器の症候・症例		
12	心理・精神機能、神経・運動器の症候・症例		
13	生殖器の症候・症例		
14	小児疾患、その他症候・症例		
15	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法：期末試験(90%)、授業態度(5%)、出席状況(5%) 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	配布プリント		
参考文献	『東洋医学臨床論(はりきゅう編)』：東洋療法学校協会 『東洋医学概論』：東洋療法学校協会 『針灸学 基礎編』：東洋学術出版社 『針灸学 臨床篇』：東洋学術出版社 『図説 東洋医学 基礎編』：株式会社 学習研究社 など		

科目名	各種鍼灸		
担当教員	御書 隆之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	後期
単位数	実技 1単位	時間数	30時間
科目の概要	鍼灸における専門分野の治療法や業界について学ぶ。		
科目の目標	各分野の治療方法や病態把握の仕方など、同じ鍼灸という領域の中での専門性を知る。		
学習の到達目標	各専門分野の治療法を知り、体験する。		
学習方法・学習上の注意	専門分野のため、使用器具等の扱いに注意し安全に実習を行う。		
関連科目			
持参物	実技道具一式(学校配布のもの)・必要に応じて患部を出せるような服装		
講義計画	講義内容		
1～4	美容鍼灸		
5～6	未妊鍼灸		
7～8	開業鍼灸		
9～10	高齢者鍼灸		
11～15	スポーツ鍼灸		
成績評価の方法と基準	評価方法:授業態度20%、出席率80%にて総合的に評価をする。 評価基準:学則に基づき、A(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	なし		
参考文献	なし		

科目名	経営管理		
担当教員	横手雄徳・角田朋之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	後期
単位数	講義 1単位	時間数	8 時間
科目の概要	実際に治療院を開業できるように、どのようなコンセプトで、どこに治療院を作るのか。経営に必要な数字の知識、資金集め、開業に必要な手続きなどのシミュレーションを行う。		
科目の目標	開業するために必要な準備ができるようになる。		
学習の到達目標	「損益計算書」の内容を理解できるようになる。「事業計画書」を作成できるようになる。		
学習方法・学習上の注意	将来のことをイメージし、書くことによって具現化する。		
関連科目	関係法規		
持参物	配布プリント、PC、電卓		
講義計画	講義内容		
1	鍼灸治療院の開業① 損益計算書		
2	鍼灸治療院の開業② 損益計算書		
3	鍼灸治療院の開業③ 事業計画書		
4	鍼灸治療院の開業④ 事業計画書		
5	鍼灸治療院の開業⑤ 事業計画書		
6	鍼灸治療院の開業⑥ 事業計画書		
7	鍼灸治療院の開業⑦ 事業計画書		
8	鍼灸治療院の開業⑧ 事業計画書		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	配布プリント、PC		
参考文献	『自分でパパッとできる事業計画書』：SHOEISHA、『決算書の読み方』：西東社		

科目名	特別授業 I		
担当教員	専任教員(分担)	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	3年生	開講学期	前期
単位数	講義 5単位	時間数	75時間
科目の概要	3年次における国家試験対策を主とする。全科目を横断的に学習し、3学年に渡る学習の総まとめとする。 特別授業 I では基礎科目対策を主とする。		
科目の目標	基礎科目知識を定着させ、他科目知識の理解と定着へとつなげる。		
学習の到達目標	各科目の重要ポイントをおさえる。 違う科目であっても共通する分野の知識を関連付ける。		
学習方法・学習上の注意	国家試験対策という事もあり、基本的には過去に行った内容の復習になるので、授業が円滑に進むようにしっかりと復習しておく。		
関連科目	解剖学、生理学、伝統医学概論、経絡経穴概論、鍼灸理論		
持参物			
講義計画	講義内容		
1～8	解剖学の復習		
9～20	生理学の復習		
21～26	伝統医学概論の復習		
27～29	経絡経穴概論の復習		
30～38	鍼灸理論の復習		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	解剖学: 医歯薬出版株式会社 生理学: 医歯薬出版株式会社 新版 東洋医学概論: 医道の日本社 新版 経絡経穴概論: 医道の日本社 はりきゅう理論: 医道の日本社		
参考文献			

科目名	特別授業Ⅱ		
担当教員	専任教員(分担)	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	3年	開講学期	通年
単位数	講義 3単位	時間数	45時間
科目の概要	3年次における国家試験対策を主とする。全科目を横断的に学習し、3学年に渡る学習の総まとめとする。特別授業Ⅱでは臨床医学の科目対策を主とする。		
科目の目標	特別授業Ⅰで定着させた基礎科目知識をもとに、臨床医学における病態や所見について関連付けによる知識定着を図る。		
学習の到達目標	各科目の重要ポイントをおさえる。 違う科目であっても共通する分野の知識を関連付ける。		
学習方法・学習上の注意	国家試験対策という事もあり、基本的には過去に行った内容の復習になるので、授業が円滑に進むようにしっかりと復習をしておく。その日、扱った範囲に復習を都度行うこと。		
関連科目	臨床医学総論、臨床医学各論ⅠⅡⅢ、リハビリテーション医学、東洋医学臨床論、公衆衛生学、病理学概論		
持参物	実技道具一式(学校配布のもの)・必要に応じて患部を出せるような服装		
講義計画	講義内容		
1～11	臨床医学総論および臨床医学各論の復習		
12～15	伝統医学臨床論の復習		
16～18	リハビリテーション医学の復習		
19～21	公衆衛生学の復習		
22～23	病理学概論の復習		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験80%、授業態度10%、出席率10%にて総合的に評価をする。 評価基準: 学則に基づき、A(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	なし		
参考文献	リハビリテーション医学第4版(医歯薬出版) 臨床医学総論第2版(医歯薬出版) 病理学概論第2版(医歯薬出版) 新版東洋医学概論(医道の日本)		

科目名	応用実技Ⅲ		
担当教員	進藤 千聖	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	通年
単位数	実技 3単位	時間数	90時間
科目の概要	現代医学的な知識および診察法にて、主に整形外科疾患における病態鑑別を行う。 また、スムーズな治療が行えるように所作を磨く。		
科目の目標	現代医学的な根拠を持った治療が行えるようになる。		
学習の到達目標	ペーパーペイシエントの自覚症状および検査における所見から病態鑑別を行い、根拠ある治療法を行えるようになる。		
学習方法・学習上の注意	解剖学(特に骨格・神経系)における知識の確認を行い、臨床実習で活かせる技術を身に付けるよう努力する。		
関連科目	解剖学Ⅰ・リハビリテーション医学・東洋医学臨床論		
持参物	実技道具一式(学校配布のもの)・必要に応じて患部を出せるような服装		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	肩こり		
3～4	変形性膝関節症		
5～6	腰痛(筋・筋膜性)		
7～8	腰痛(仙腸関節性)		
9～10	腰痛(椎間関節性)		
11～12	腰痛(急性筋性腰痛)		
13～14	腰痛(腰椎椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症)		
15～16	頸椎症		
17～18	肩関節周囲炎		
19～20	胸郭出口症候群		
21～22	テニス肘		
23～24	膝疾患(ランナー膝・ジャンパー膝等)		
25～26	野球肩・野球肘		
27～28	中間試験		
29～30	アキレス腱炎		
31～32	寝違え		
33～34	頭痛(緊張性頭痛・片頭痛・後頭神経痛)		
35～36	顎関節症		
37～38	肋間神経痛		
39～40	睡眠障害(現代型不眠)		
41～42	高血圧・便秘		
43～44	まとめ		
45	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法: 中間試験は刺鍼動作や施術所作において評価する。期末試験は病態鑑別し、病態に応じた治療が行えるか評価する。※両試験ともに60点以上を合格とし、60点未満の場合は再試験対象とする。 総合評価については出席率および授業態度を含めた評価とする。(出席点:1コマにつき欠席は2点、遅刻/早退は1点減点とする。授業態度:授業中、課題以外の事を実施した場合は、1コマにつき10点減点とする。) 評価基準:学則に基づき、A(80点以上)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(60点未満)とする。		
使用テキスト	なし		
参考文献	整形外科がみえる(メディックメディア) 病気がみえる⑦脳・神経(メディックメディア)		

科目名	応用実技Ⅳ		
担当教員	佐々木勇人・進藤千聖	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	通年
単位数	実技 3単位	時間数	90時間
科目の概要	伝統医学的臨床論で学習する弁証(症状)を中心に、東洋医学的な病態把握および施術方法を学ぶ。		
科目の目標	東洋医学的な診察法(四診)を行い、病態把握および治療ができるようになる。		
学習の到達目標	ペーパーバイシエントの自覚症状および検査における所見から病態鑑別を行い、根拠ある治療法を行えるようになる。		
学習方法・学習上の注意	基本である八綱弁証を踏まえ、患者の病態把握をする。施術においては道具の扱いに注意し危険行為のないように、衛生的に行うこと。		
関連科目	伝統医学概論Ⅰ・Ⅱ、伝統医学臨床論		
持参物	実技道具一式(学校配布のもの)・必要に応じて患部を出せるような服装		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	八綱弁証・刺鍼練習 等		
3～4	頭痛①		
5～6	頭痛②		
7～8	運動麻痺		
9～10	不眠		
11～12	下痢①		
13～14	下痢②		
15～16	便秘①		
17～18	便秘②		
19～21	まとめ		
22	中間試験		
23～24	耳鳴り		
25～26	めまい		
27～28	咳嗽		
29～30	腹痛		
31～32	腰痛		
33～34	顔面痛・歯痛		
35～36	眼精疲労		
37～38	月経異常		
39～40	肩こり		
41～42	食欲不振		
43～44	まとめ		
45	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法：中間試験にて佐々木担当範囲、期末試験にて進藤担当範囲の技術評価を行う。※両試験ともに60点以上を合格とし、60点未満の場合は再試験対象とする。総合評価については出席率および授業態度を含めた評価とする。(出席点：1コマにつき欠席は2点、遅刻/早退は1点減点とする。授業態度：授業中、課題以外の事を実施した場合は、1コマにつき10点減点とする。)評価基準：学則に基づき、A(80点以上)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(60点未満)とする。		
使用テキスト	なし		
参考文献	整形外科がみえる(メディックメディア) 病気がみえる⑦脳・神経(メディックメディア)		

科目名	臨床実習		
担当教員	岩村英明 ・ 大槻健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	通年
単位数	実習 2単位	時間数	90時間
科目の概要	校内の附属臨床施設を使用して行う。実際の患者様の施術を通して今まで学習してきた全ての知識や技術の総まとめを行う。		
科目の目標	基本的臨床能力としての、知識・技能・態度・習慣を身につける。		
学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者に対し、受付や誘導など適切な対応が出来るようになる。 2. 患者に対し、適切に医療面接を行うことが出来るようになる。 3. 患者に対し、必要と思われる検査を適切に実施することが出来るようになる。 4. 医療面接や検査で得た情報から、病態把握や治療方針をたてることが出来るようになる。 		
学習方法・学習上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実習は臨床の現場であるため、毎回の実習での態度は学生としての評価のみではなく、鍼灸業界全体に関わる重要なものであること絶対に忘れないこと。初めて治療院に訪れる患者も多く、この実習での施術者や学生の態度が鍼灸そのもののイメージになることを常に意識すること。 2. 実習中、指導教員の指示に従うことは当然のことだが、分からないことを分からないままにせず、必ず指示を聞いて行動すること。 3. 附属治療院で見聞きした患者の個人情報口外しないこと。また、ソーシャルネットワーク上（ブログ・ツイッター・LINE等）にも絶対に出さないこと。 		
関連科目	解剖学、生理学、臨床医学総論、臨床医学各論、鍼灸実技、応用実技		
持参物	筆記用具、クリップボード、臨床実習ノート		
講義計画	講義内容		
1～2	オリエンテーション		
3～42	実習		
43～44	期末評価		
45	フィードバック		
成績評価の方法と基準	<p>評価方法：課題提出50%、学習意欲・授業態度（出席状況を含む）20%、期末評価・外部評価30%</p> <p>評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。</p>		
使用テキスト			
参考文献			